

平成29年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書 ＜概要＞

平成30年7月
総務省情報通信政策研究所

調査趣旨等

- インターネット、ソーシャルメディア等のインターネット上のメディア、テレビ、ラジオ等の情報通信メディアについて、利用時間の長さ・時間帯、利用率、信頼度等を継続的に把握し、新聞、雑誌等の情報通信メディア以外のメディアを含め、メディア間の関係や利用実態の変化等を明らかにする。平成24年から毎年実施(今回で6回目の調査)。
- 東京大学大学院情報学環 橋元 良明教授ほか[※]との共同研究の形式で実施。

※ 東京経済大学コミュニケーション学部准教授 北村 智氏 及び 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任助教 河井 大介氏

調査概要

- 対象者:13歳から69歳までの男女1,500人

サンプルの構成は性別・年齢10歳刻みで平成29年1月住民基本台帳の実勢比例。全国125地点にてランダムロケーションクォータサンプリングにより抽出

- 調査方法:訪問留置調査

調査の実査は、株式会社山手情報処理センターが実施

- 調査対象期間:平成29年11月11日(土)～17日(金)

- 日記式調査とアンケート調査を併行実施

① 日記式調査(平日2日・休日1日)

テレビ、新聞、インターネット等の利用について、機器/利用内容毎に利用時間、並行利用の実態を日記式調査手法(24時間15分刻み)で調査。(休日の調査は平成25年から実施。)

② アンケート調査

- PC、スマートフォン/フィーチャーフォン等の機器の保有・利用状況、主なウェブサイト/アプリに関する利用状況を調査。
- テレビ、新聞等の従来型メディアとインターネット上の各種メディアについて、情報の種類毎に情報源としての重要度、信頼度等について調査。

第Ⅰ部 情報通信メディア・機器の利用時間と行為者率

第1章 主なメディアの利用時間と行為者率

- 1-1 テレビ、インターネット、新聞、ラジオの利用時間と行為者率
- 1-2 テレビのリアルタイム視聴とインターネットの並行利用

第2章 コンテンツ類型ごとのメディアの利用時間と行為者率

- 2-1 インターネットの利用項目別の利用時間と行為者率
- 2-2 動画系メディアの比較
- 2-3 テキスト系メディアの比較
- 2-4 コミュニケーション系メディアの比較

第3章 主な機器によるインターネット利用時間と行為者率

- 3-1 主な機器によるインターネット利用時間と行為者率
- 3-2 所在場所類型ごとのインターネット利用時間

第Ⅱ部 機器及び各種サービスの利用率等

第4章 機器関係の利用率等

- 4-1 主な機器の利用率
- 4-2 モバイル機器(スマートフォン、フィーチャーフォン)等の利用率
- 4-3 スマートフォンの契約事業者等
- 4-3 自宅での無線LAN利用

第5章 各種サービスの利用率等

- 5-1 主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率
- 5-2 新聞、ニュースサービスの利用率
- 5-3 動画共有・配信サービス等の利用率等

第Ⅲ部 メディアの利用目的とメディアイメージ

第6章 目的・情報類型別のメディアの利用状況

- 6-1 目的別の利用メディア
- 6-2 情報類型別に利用される主なメディア

第7章 メディアの重要度と信頼度

- 7-1 メディアの重要度
- 7-2 メディアの信頼度

(参考)本報告書の用語の定義、計算方法

①日記式調査における用語の定義と計算方法

ア)平均利用時間

調査日1日あたりの、ある情報行動の全調査対象者の時間合計を調査対象者数で除した数値。

平日については調査日数(2日間)の1日あたりの、休日については調査日の平均時間。

イ)行為者率

調査日1日あたりの、調査対象者のうち情報行動を行った人の比率。

平日については調査日2日間の平均。休日については、調査日の比率。

ウ)行為者平均時間

調査日1日あたりのある情報行動の時間合計を、同じ調査日における行為者数で除した数値。その情報行動を行った者に限定した平均時間。

平日については調査日数(2日間)の1日あたりの、休日については調査日の平均時間

②アンケート調査における用語の定義と計算方法

◎利用率

アンケート調査において「自分が利用している」と回答した割合。

(日記式調査の調査期間において実際に利用した人の割合(行為者率)とは異なる。)

- 主なメディア^{※1}の中では、テレビ(リアルタイム)視聴^{※2}の平均利用時間が最も長く、平日159.4分、休日214.0分だが共に減少傾向。インターネットの平均利用時間がこれに続き、平日100.4分、休日123.0分であり、共に一貫して増加。【P5】
- 平日の行為者率は、テレビ(リアルタイム)視聴80.8%、インターネット利用78.0%となり数値が並びつつある。40代のインターネット利用の行為者率が、10～30代に続き、平日休日ともに初めてテレビ(リアルタイム)視聴の行為者率を上回った。【P5・6】
- テレビ(リアルタイム)視聴とインターネットの並行利用(ながら視聴)の状況は前回調査から変わらず、平日休日ともに、ゴールデンタイム(19時台～22時台)の間に、テレビ(リアルタイム)視聴のうち概ね10%台後半～20%台後半程度が「ながら視聴」をしている。【P7】
- インターネットの利用項目別の利用時間では、平日はメールが最も長く30.4分、次いでソーシャルメディア^{※3}が27.0分。休日は、ソーシャルメディアが31.2分、次いで動画投稿・共有サービス^{※4}及びオンラインゲーム・ソーシャルゲーム^{※5}がそれぞれ26.1分。ソーシャルメディアは、女性の方が利用時間が長く、10～20代の若年層で男女差が顕著。【P8】
- テレビ系動画の平均利用時間は、10～20代において平日休日ともに減少傾向であり、他方でネット系動画の平均利用時間は概ね増加傾向にあるため、両者の平均利用時間の差は、前回調査より更に縮まった。【P9】
- ソーシャルメディアの平均利用時間が、10～20代の若年層で極めて長い傾向は変わらないが、今回調査では、10代平日58.9分→54.0分、10代休日96.8分→75.8分、20代休日80.7分→77.8分が減少に転じた。一方で、ソーシャルメディアの行為者率は、若年層に限らず全ての年代において増加しており、高い年齢層においてもソーシャルメディアが重要なコミュニケーション手段となりつつある。【P10・11】

※1 テレビ(リアルタイム視聴及び録画視聴)、インターネット、新聞及びラジオ。

※2 テレビ受像器における視聴のみならず、あらゆる機器によるリアルタイムのテレビ視聴をいう。

※3 日記式調査票では、Twitter、LINE、Facebook、Instagramなどを例示している。

※4 日記式調査票では、YouTube、ニコニコ動画、ニコニコ生放送、ツイキャスなどを例示している。

※5 日記式調査票では、ラグナロクオンライン、メイプルストーリー、ポケモンGO、パズル&ドラゴンズ、モンスターストライクなどを例示している。

- スマートフォンなどモバイル機器によるインターネットの平均利用時間は、平日64.7分、休日88.6分で継続的に増加している。10～20代の利用時間が依然突出している。【P12】
- スマートフォンの利用率が80.4%となり8割を越えた。また、タブレットの利用率は34.3%と増加し、フィーチャーフォンの利用率が25.2%と減少したため、初めてを前者が後者を上回った。【P14】
- 主なソーシャルメディア系サービス/アプリの利用率ではLINEが最も高く75.8%。Facebook31.9%、Twitter31.1%、Instagram25.1%がこれに続く。【P15】
- 動画共有・配信サービス等の利用率では、「オンデマンド型の動画共有サービス」^{※6}が68.5%。「有料多チャンネル放送サービス」^{※7}が16.8%で続く。「ライブ配信型の動画共有サービス」^{※8}は、10～20代の若年層で見るとそれぞれ10ポイント以上利用率が増加している。【P18】
- 12歳以下の子供のうち63.8%がネット動画を見ており、23.9%がアプリを利用している。子供がネット動画を見る際の機器は、スマートフォン38.2%、タブレット端末34.0%の順で最も用いられる。【P19】
- いち早く情報を得る又は信頼できる情報を得るためには、テレビが最も高い割合で利用される。趣味・娯楽に関する情報を得る又は仕事や調べものに役立つ情報を得るためには、インターネットが最も高い割合で利用される。ただし、全般的にテレビを利用する割合は概ね減少傾向、インターネットを利用する割合は概ね増加傾向となっている。【P20】
- 情報源としての重要度ではテレビが最も高く、インターネット、新聞、雑誌と続く。メディアとしての信頼度については、引き続き新聞が最も高く、次いでテレビ、インターネット、雑誌となった。【P21・22】

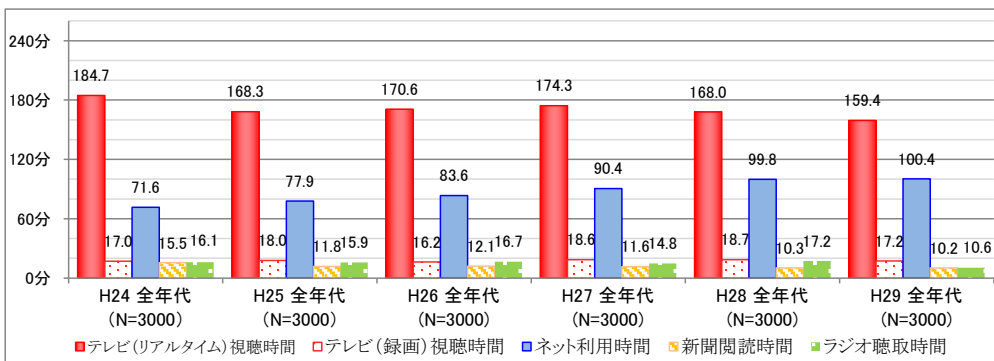
※6 アンケート調査票では、YouTube、ニコニコ動画などを例示している。

※7 アンケート調査票では、WOWOW、スカパー、ケーブルテレビなどを例示している。

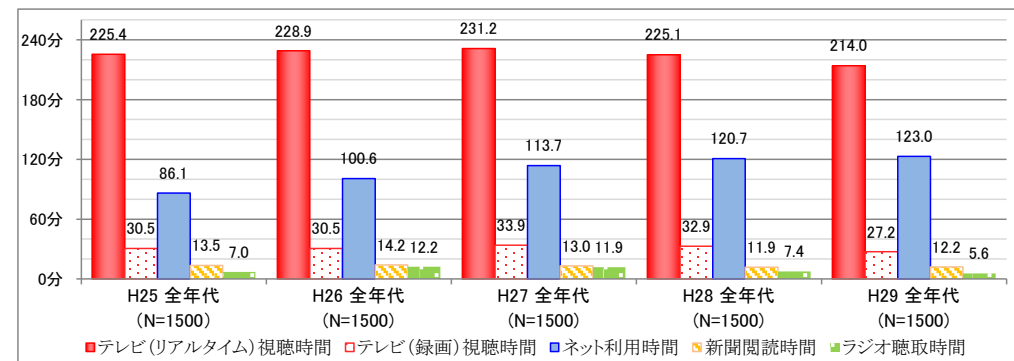
※8 アンケート調査票では、ニコニコ生放送及びツイキャスを例示している。

- テレビ、インターネット、新聞及びラジオを比較すると、全年代では、テレビ(リアルタイム)視聴の平均利用時間が最も長く、行為者率も最も高い。次いでインターネット利用の平均利用時間が長く、行為者率も高い。この傾向は以前から変わらない。
- テレビ(リアルタイム)視聴の平均時間は、平日159.4分、休日214.0分と減少傾向。
- インターネットの平均利用時間は、平日休日ともに一貫して増加傾向にあり、平日100.4分、休日123.0分。また、特に平日の行為者率を見ると、テレビ(リアルタイム)視聴80.8%、インターネット利用78.0%と、両者の数値が並びつつある。

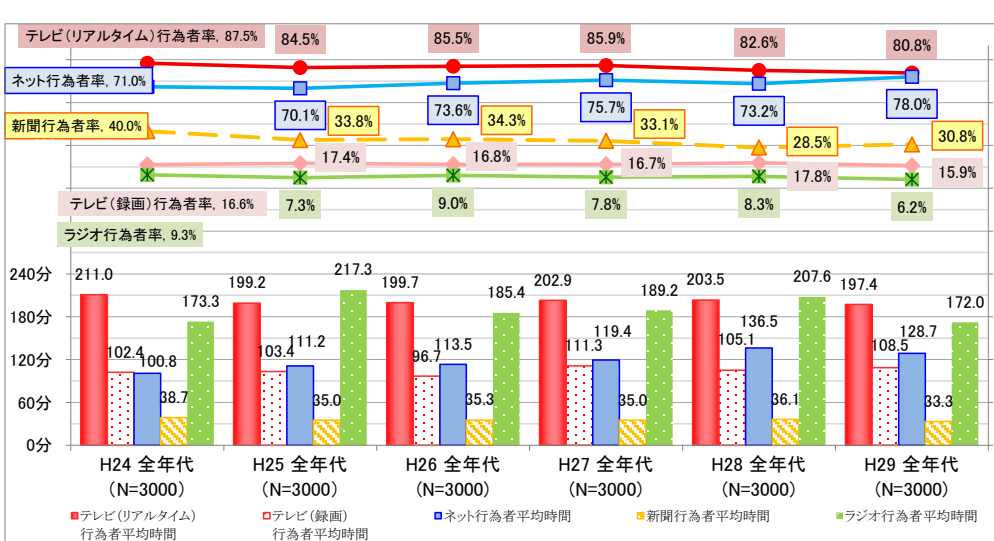
経年(平日)主なメディアの平均利用時間(全年代)



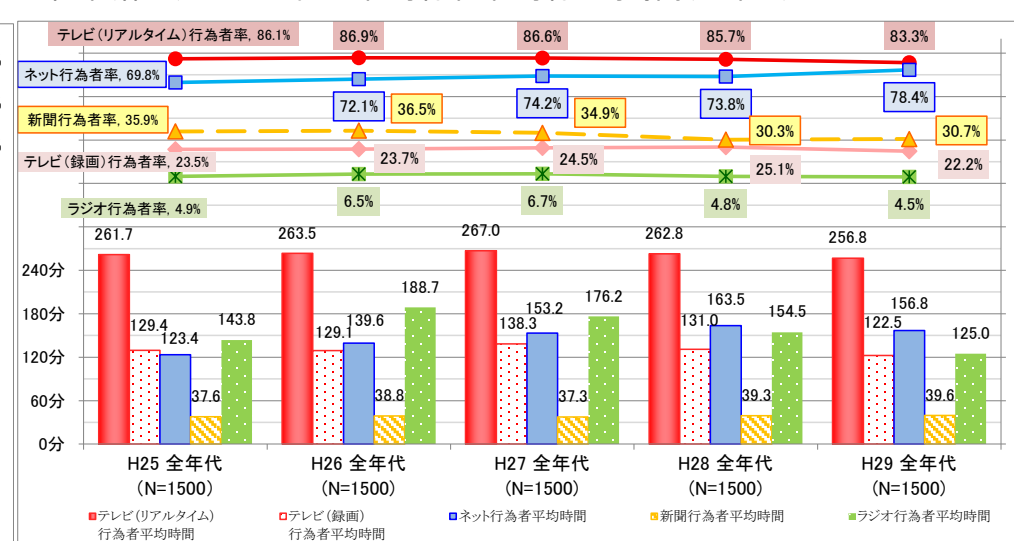
経年(休日)主なメディアの平均利用時間(全年代)



経年(平日)主なメディアの行為者率・行為者平均時間(全年代)

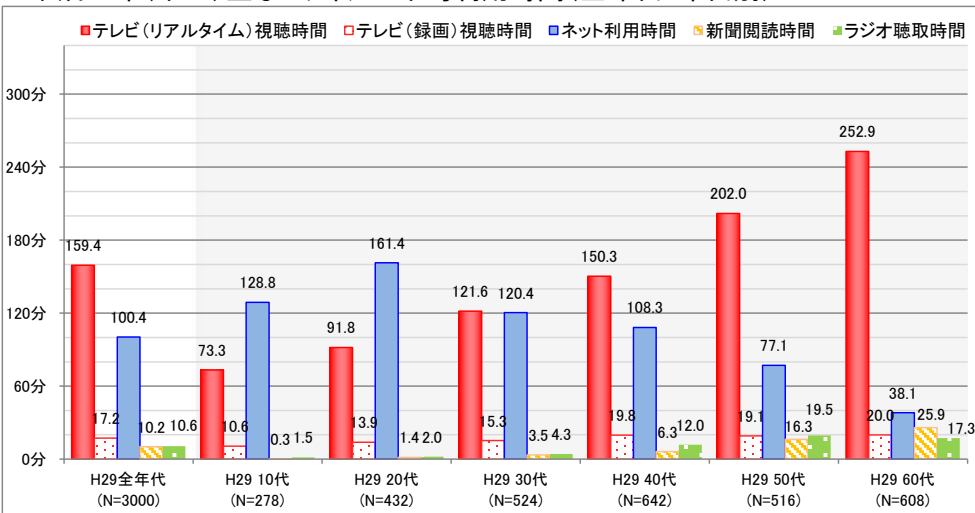


経年(休日)主なメディアの行為者率・行為者平均時間(全年代)

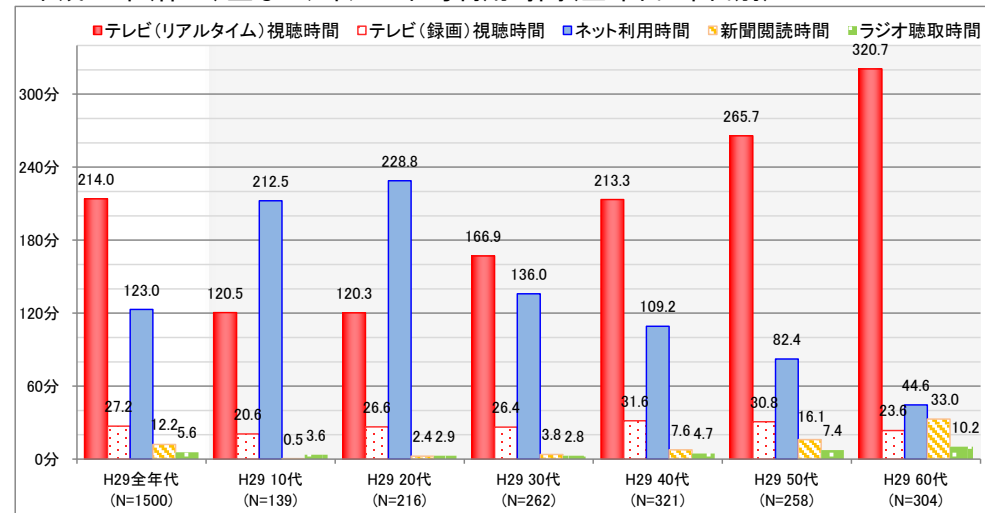


- 40代の行為者率では、前回調査と比べて、平日休日ともにインターネット利用の行為者率が増加し、テレビ(リアルタイム)視聴の行為者率が減少したことにより、インターネット利用(平日83.5%、休日84.4%)が、テレビ(リアルタイム)視聴(平日83.0%、休日83.8%)を初めて上回った。

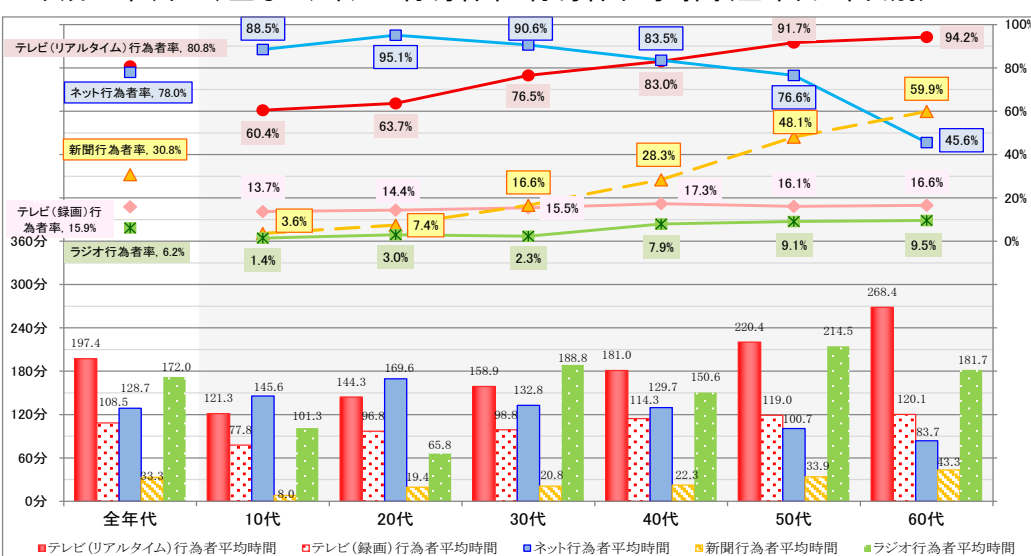
平成29年(平日)主なメディアの平均利用時間(全年代・年代別)



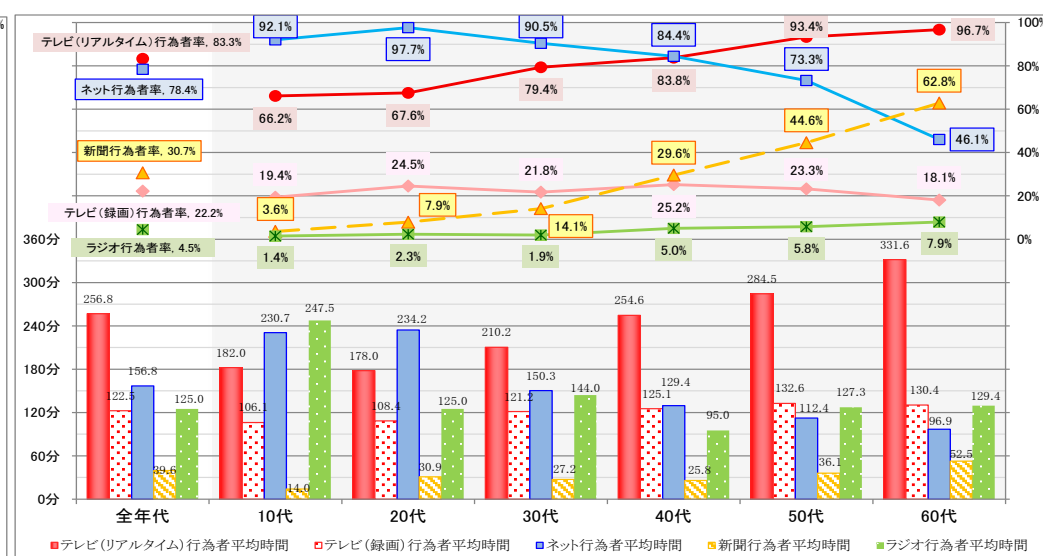
平成29年(休日)主なメディアの平均利用時間(全年代・年代別)



平成29年(平日)主なメディアの行為者率・行為者平均時間(全年代・年代別)

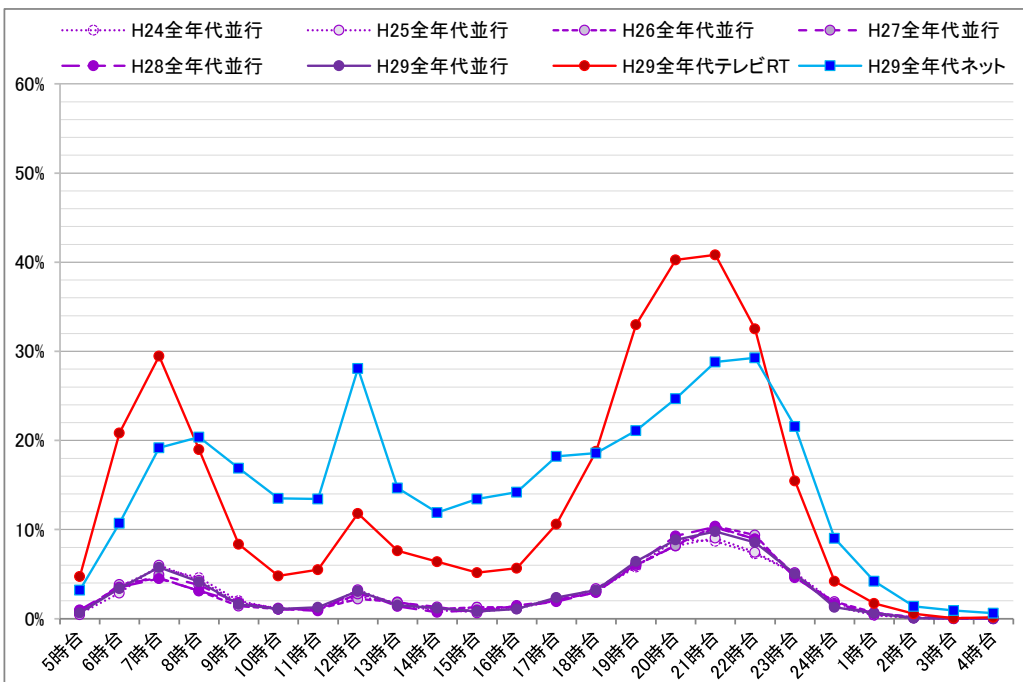


平成29年(休日)主なメディアの行為者率・行為者平均時間(全年代・年代別)

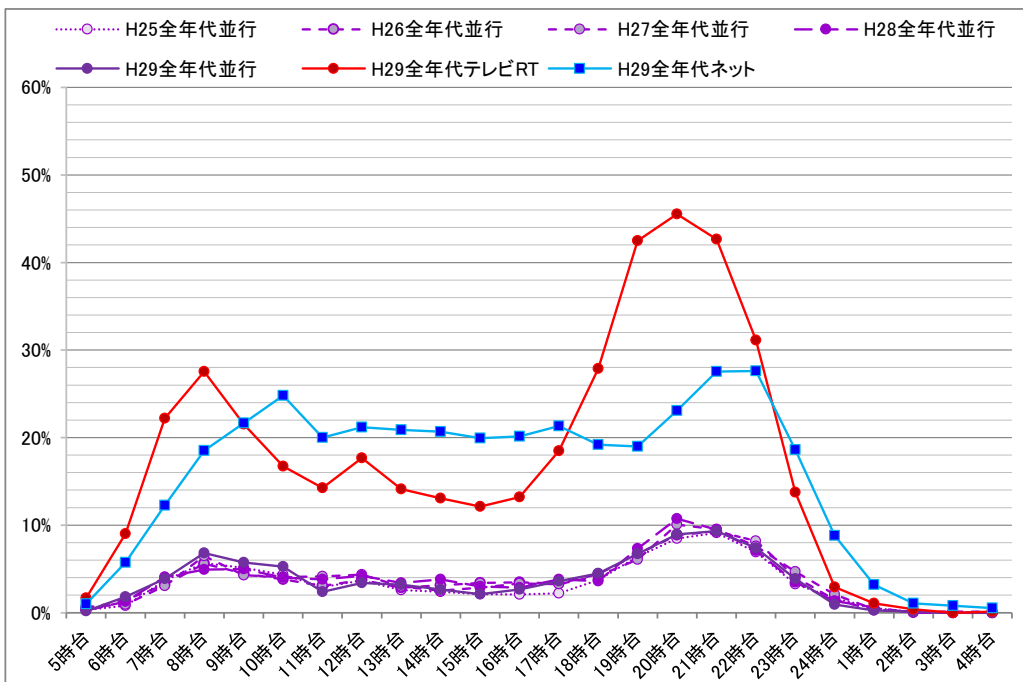


- 平日では、全年代のテレビ(リアルタイム)視聴の時間帯別行為者率がピークの40.8%となる21時台に、9.8%が並行利用(ながら視聴)をしている。すなわち、テレビ(リアルタイム)視聴のうちの23.9%が「ながら視聴」をしていることになる。
- 経年で時間帯別のながら視聴の行為者率を見ると、概ね傾向は同じ。
- テレビ(リアルタイム)視聴のうちの「ながら視聴」の割合を見ると、平日休日ともに、ゴールデンタイムである19時台～22時台の間に、概ね10%台後半～20%台後半程度。なお、20代は、同時間帯で概ね30%台前半から最大52.0%。

平成29年(平日)「テレビ(リアルタイム)視聴」、「インターネット利用」及び並行利用(ながら視聴)時間帯別行為者率(全年代)



平成29年(休日)「テレビ(リアルタイム)視聴」、「インターネット利用」及び並行利用(ながら視聴)時間帯別行為者率(全年代)



平成29年(平日)時間帯別のテレビ(リアルタイム)視聴に並行利用が占める割合(年代別)

	10代			20代			30代			40代			50代			60代		
	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行
19時台	7.6%	23.0%	32.8%	7.2%	22.7%	31.6%	6.5%	26.2%	24.8%	5.0%	27.4%	18.2%	8.5%	39.7%	21.5%	5.1%	51.0%	10.0%
20時台	8.6%	21.9%	39.3%	10.7%	27.8%	38.3%	10.1%	33.8%	29.9%	8.1%	38.0%	21.3%	10.3%	49.0%	20.9%	6.3%	58.1%	10.8%
21時台	11.5%	21.6%	53.3%	12.5%	27.8%	45.0%	10.9%	31.9%	34.1%	12.0%	43.0%	27.9%	8.7%	48.6%	17.9%	4.6%	57.7%	8.0%
22時台	9.7%	19.1%	50.9%	12.3%	23.6%	52.0%	11.8%	30.2%	39.2%	9.4%	36.3%	25.8%	7.2%	40.9%	17.5%	3.0%	36.0%	8.2%

平成29年(休日)時間帯別のテレビ(リアルタイム)視聴に並行利用が占める割合(年代別)

	10代			20代			30代			40代			50代			60代		
	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行	並行	テレビリアルタイム / テレビ	並行
19時台	10.1%	27.3%	36.8%	5.6%	23.6%	23.5%	6.5%	38.9%	16.7%	6.5%	43.3%	15.1%	8.9%	47.3%	18.8%	4.6%	60.9%	7.6%
20時台	8.6%	30.9%	27.9%	7.4%	23.2%	32.0%	12.6%	38.9%	32.4%	9.7%	49.5%	19.5%	8.5%	52.7%	16.2%	6.6%	63.5%	10.4%
21時台	7.9%	23.0%	34.4%	9.7%	23.6%	41.2%	11.1%	37.8%	29.3%	12.8%	48.0%	26.6%	7.4%	50.8%	14.5%	6.3%	56.9%	11.0%
22時台	7.2%	19.4%	37.0%	12.0%	23.2%	52.0%	7.6%	26.0%	29.4%	6.9%	30.8%	22.2%	9.7%	43.0%	22.5%	2.6%	36.8%	7.1%

上記の表中、「並行」「テレビリアルタイム」は各年代全体に占める割合、「並行/テレビ」はテレビ(リアルタイム)視聴に並行利用が占める割合

- 平日の全年代の平均利用時間を比較すると、メールを読む・書くが最も長く30.4分、次いでソーシャルメディアを見る・書くが27.0分、ブログやウェブサイトを見る・書くが21.3分。
- 休日で比較すると、ソーシャルメディアを見る・書くが31.2分、動画投稿・共有サービスを見るが26.1分、オンラインゲーム・ソーシャルゲームをするが26.1分、ブログ・ウェブサイトを見る・書くが24.3分、メールを読む・書くが20.6分の順。
- ソーシャルメディアを見る・書くは、全年代では女性の方が平均利用時間が長く、10～20代の若年層で男女差が顕著。

平成29年(平日)インターネットの利用項目別の平均利用時間
(全年代・年代別・男女別あり)

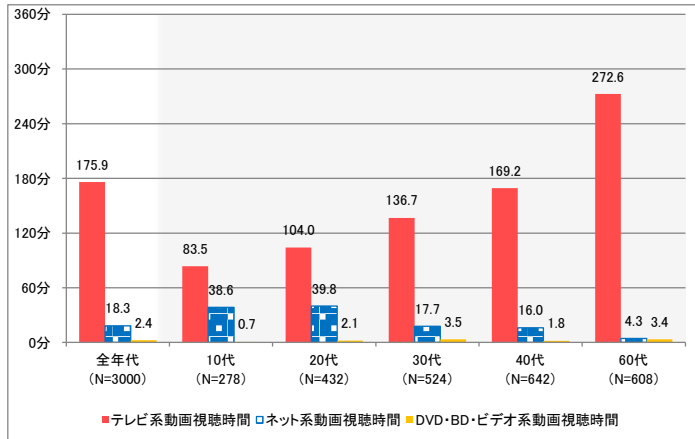
単位:分	全年代 (N=3000)	10代 (N=278)	20代 (N=432)	30代 (N=524)	40代 (N=642)	50代 (N=516)	60代 (N=608)
メールを読む・書く	30.4	17.8	34.6	35.9	43.3	28.6	16.4
ブログやウェブサイトを見る・書く	21.3	17.0	32.3	28.4	27.5	14.3	8.7
ソーシャルメディアを見る・書く	27.0	54.0	61.4	25.8	24.7	14.4	4.2
動画投稿・共有サービスを見る	15.0	37.4	33.4	12.8	12.6	7.1	2.8
VODを見る	3.2	1.2	6.6	5.1	2.8	2.2	1.4
オンラインゲーム・ソーシャルゲームをする	15.1	23.6	31.8	20.4	13.9	7.7	2.5
ネット通話を使う	2.4	4.0	6.8	2.4	1.2	1.8	0.4
	男性 (N=1514)	男性10代 (N=142)	男性20代 (N=222)	男性30代 (N=268)	男性40代 (N=326)	男性50代 (N=258)	男性60代 (N=298)
メールを読む・書く	34.5	24.0	34.7	39.1	51.9	31.7	18.8
ブログやウェブサイトを見る・書く	29.2	25.4	35.8	37.9	41.4	18.3	14.4
ソーシャルメディアを見る・書く	23.6	43.0	53.0	22.3	23.7	9.6	5.7
動画投稿・共有サービスを見る	20.6	42.0	46.8	17.3	21.3	8.3	3.4
VODを見る	2.8	1.0	7.7	3.1	2.5	0.5	1.9
オンラインゲーム・ソーシャルゲームをする	20.2	33.9	44.9	26.6	18.0	8.4	2.1
ネット通話を使う	1.5	2.8	4.3	1.4	0.6	0.6	0.4
	女性 (N=1486)	女性10代 (N=136)	女性20代 (N=210)	女性30代 (N=256)	女性40代 (N=316)	女性50代 (N=258)	女性60代 (N=310)
メールを読む・書く	26.2	11.3	34.4	32.6	34.5	25.5	14.1
ブログやウェブサイトを見る・書く	13.2	8.1	28.6	18.6	13.1	10.3	3.2
ソーシャルメディアを見る・書く	30.3	65.6	70.3	29.4	25.7	19.2	2.7
動画投稿・共有サービスを見る	9.3	32.5	19.2	8.0	3.7	5.8	2.2
VODを見る	3.7	1.4	5.5	7.1	3.1	3.9	0.9
オンラインゲーム・ソーシャルゲームをする	9.9	12.8	17.9	14.0	9.5	7.0	2.9
ネット通話を使う	3.4	5.3	9.5	3.4	1.7	3.0	0.4

平成29年(休日)インターネットの利用項目別の平均利用時間
(全年代・年代別・男女別あり)

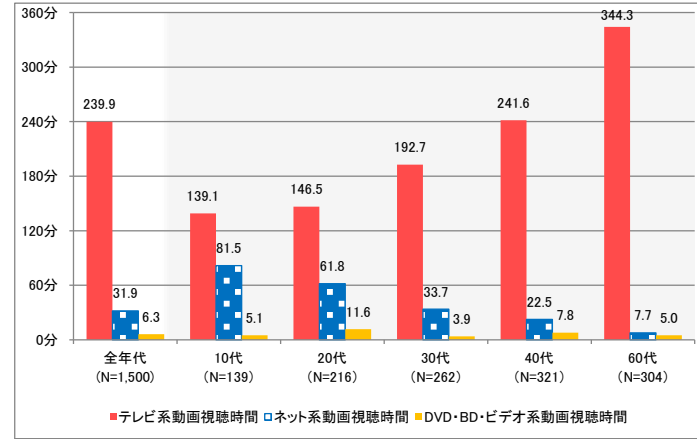
全年代 (N=1500)	10代 (N=139)	20代 (N=216)	30代 (N=262)	40代 (N=321)	50代 (N=258)	60代 (N=304)
20.6	18.6	28.2	18.0	23.8	19.4	16.0
24.3	24.6	35.8	34.8	27.0	16.3	11.0
31.2	75.8	77.8	24.1	25.5	14.8	3.9
26.1	73.7	53.8	25.5	18.9	13.4	3.5
5.5	5.6	8.8	8.1	3.7	4.5	3.7
26.1	45.3	59.0	33.9	23.5	8.8	4.5
4.1	5.4	12.7	4.0	2.4	1.2	1.8
男性 (N=757)	男性10代 (N=71)	男性20代 (N=111)	男性30代 (N=134)	男性40代 (N=163)	男性50代 (N=129)	男性60代 (N=149)
19.1	20.1	20.8	13.5	28.1	14.5	16.3
31.6	24.6	41.4	43.9	38.7	18.6	20.3
24.7	53.9	63.6	19.0	20.0	9.2	5.6
34.6	73.1	67.3	38.1	29.2	20.2	7.1
5.9	8.5	8.6	4.3	4.0	5.0	6.6
36.3	73.6	81.3	46.5	29.7	11.1	4.7
2.2	2.5	4.3	1.2	2.5	0.1	2.9
女性 (N=743)	女性10代 (N=68)	女性20代 (N=105)	女性30代 (N=128)	女性40代 (N=158)	女性50代 (N=129)	女性60代 (N=155)
22.2	17.1	36.0	22.7	19.3	24.4	15.8
16.8	24.6	29.9	25.2	15.0	13.9	2.0
37.9	98.7	92.8	29.5	31.2	20.4	2.3
17.4	74.3	39.4	12.3	8.3	6.7	0.1
5.1	2.6	8.9	12.0	3.3	4.1	0.9
15.7	15.8	35.4	20.7	17.1	6.5	4.2
6.0	8.5	21.5	6.8	2.2	2.3	0.8

- 全年代の平均利用時間を見ると、テレビ系動画：平日175.9分、休日239.9分、ネット系動画：平日18.3分、休日31.9分、DVD・BD・ビデオ系動画：平日2.4分、休日6.3分。
- ネット系動画を長く視聴する傾向がある10～20代では、平日休日ともにテレビ系動画の平均利用時間は減少傾向。他方で、ネット系動画の平均利用時間は概ね増加傾向にあることから、両者の平均利用時間の差は、前回調査よりも更に縮まっている。

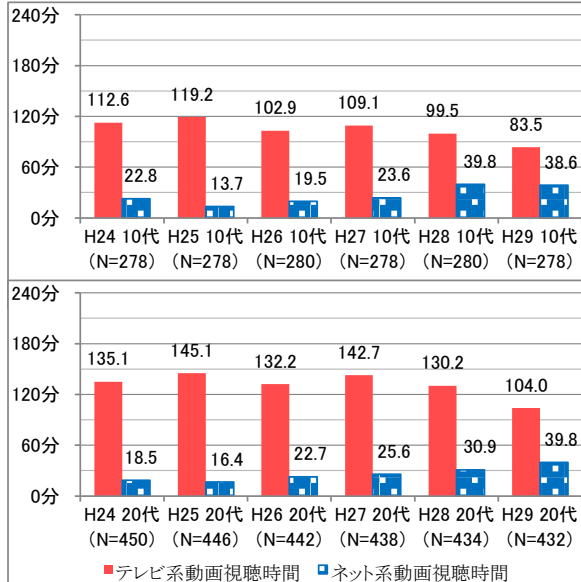
平成29年(平日)動画系メディアの平均利用時間(全年代・年代別)



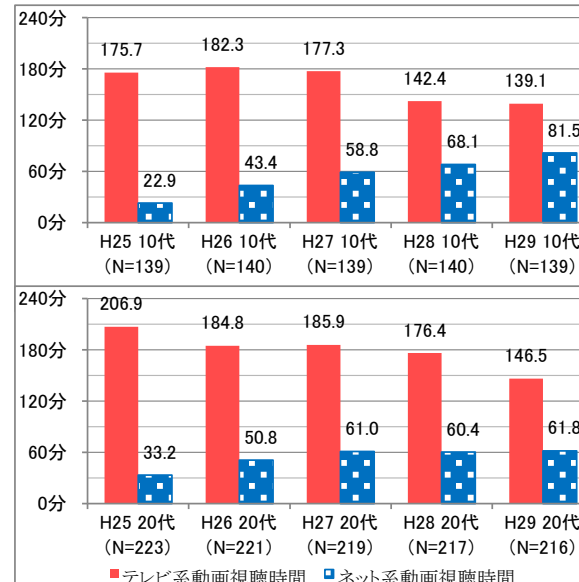
平成29年(休日)動画系メディアの平均利用時間(全年代・年代別)



経年(平日)テレビ系動画及びネット系動画の平均利用時間(10代及び20代)



経年(休日)テレビ系動画及びネット系動画の平均利用時間(10代及び20代)

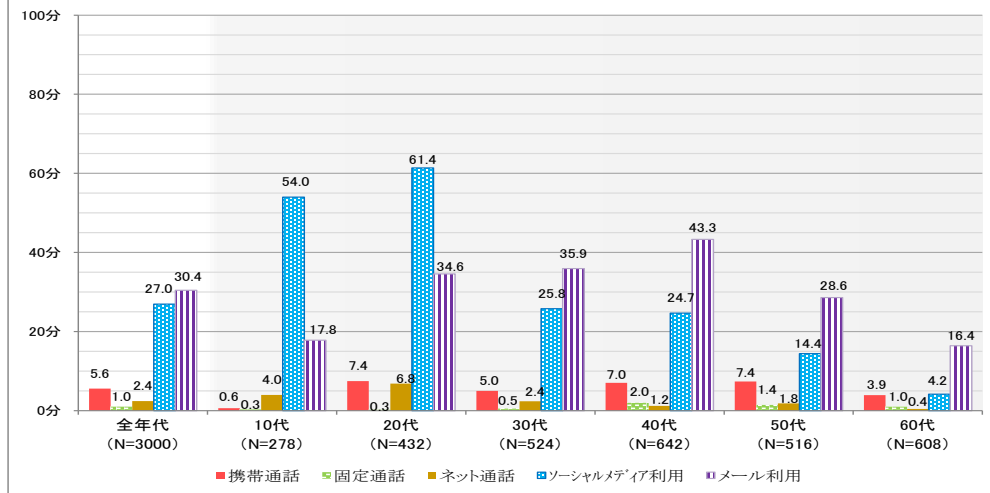


第2章2-4 コミュニケーション系メディアの比較①

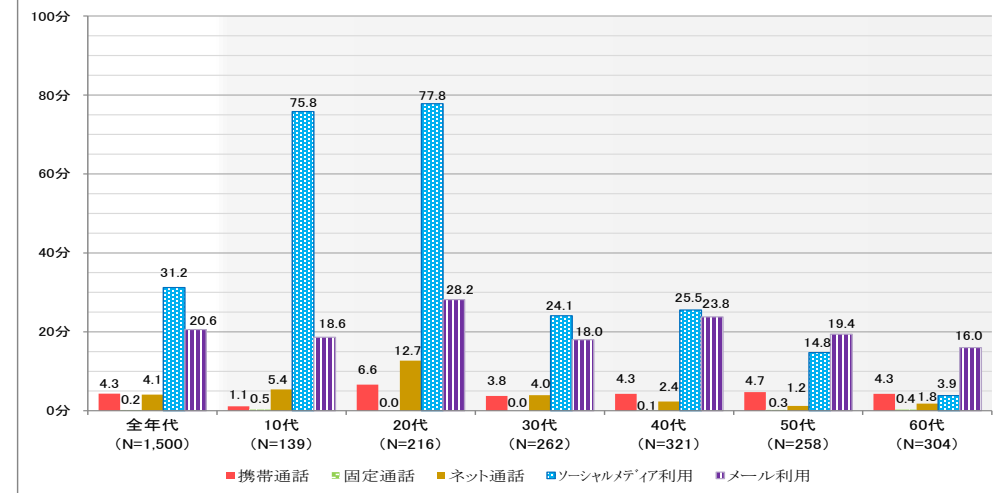
10

- 年代別に平均利用時間を見ると、10～20代については、平日休日ともに「ソーシャルメディア利用」が他の年代よりも極めて長い傾向は変わらないが、今回調査では、10代平日58.9分→54.0分、10代休日96.8分→75.8分、20代休日80.7分→77.8分が減少に転じた。

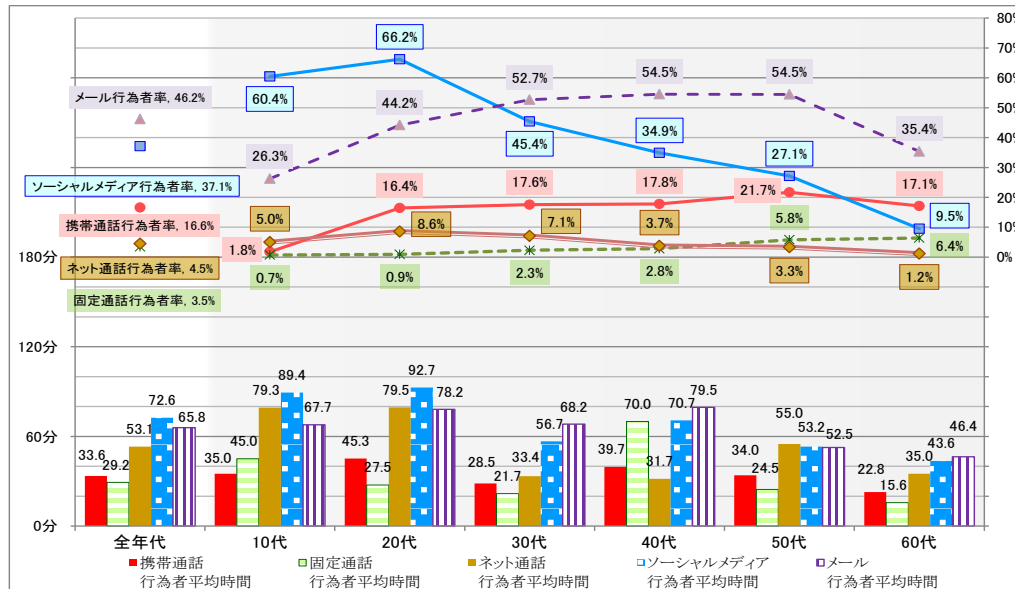
平成29年(平日)コミュニケーション系メディアの平均利用時間(全年代・年代別)



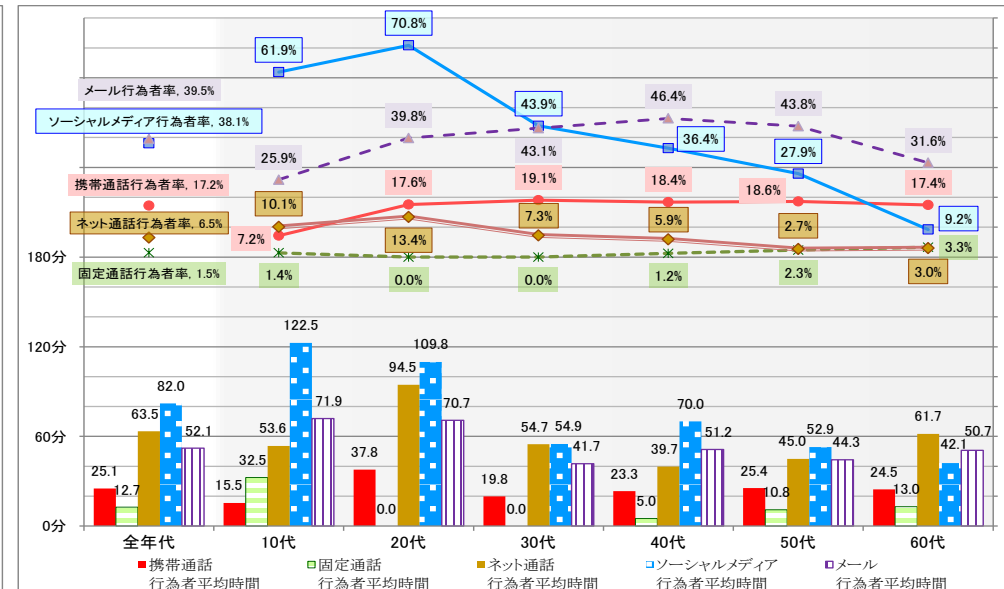
平成29年(休日)コミュニケーション系メディアの平均利用時間(全年代・年代別)



平成29年(平日)コミュニケーション系メディアの行為者率及び行為者平均時間(全年代・年代別)

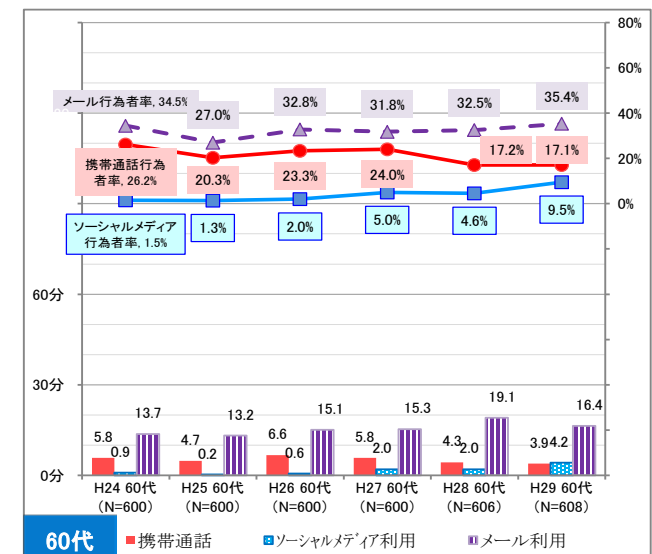
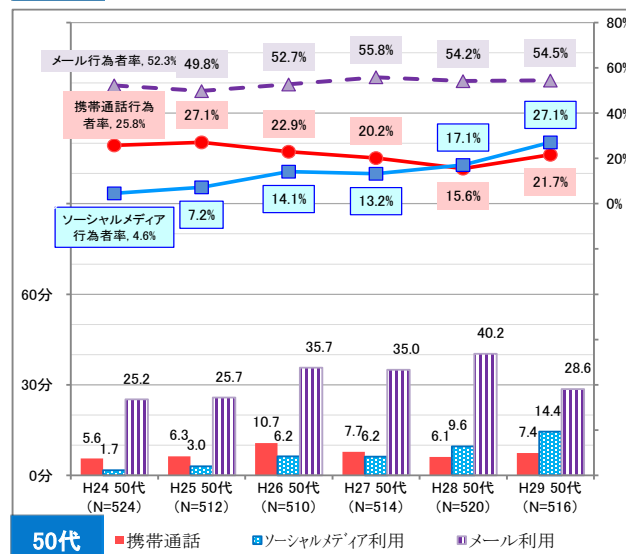
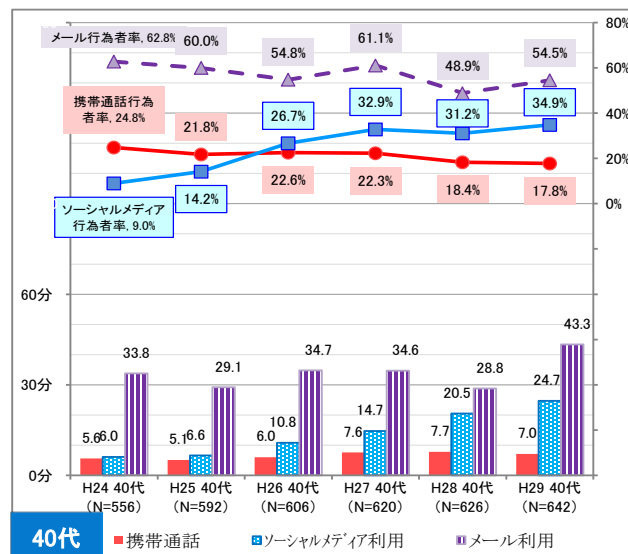
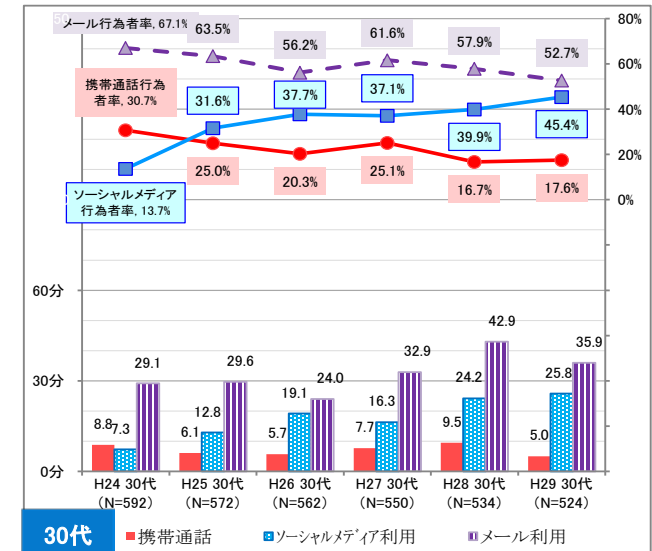
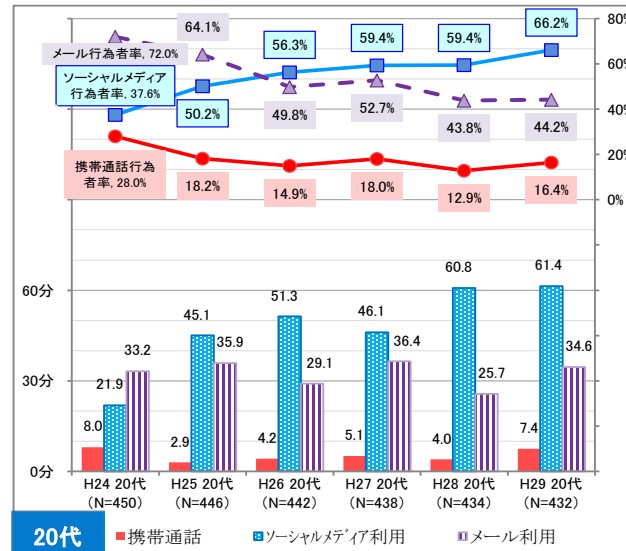
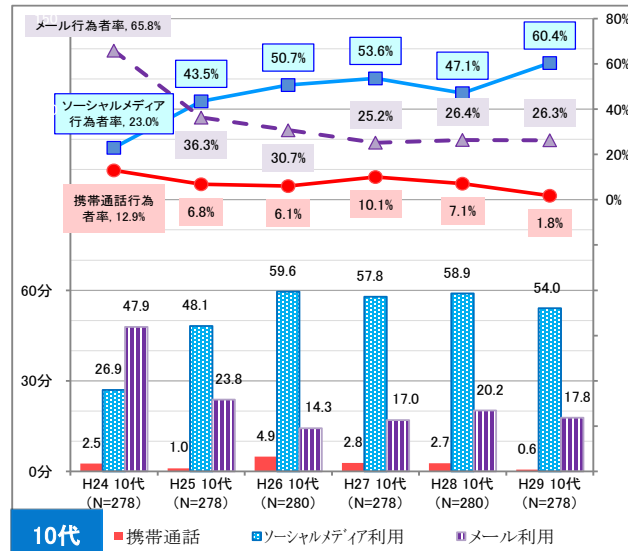


平成29年(休日)コミュニケーション系メディアの行為者率及び行為者平均時間(全年代・年代別)



- 平日について見ると、ソーシャルメディアは、今回の調査では全ての年代において行為者率が増加。また、平均利用時間も10代を除く各年代において増加。特に50代では携帯電話の平均利用時間及び行為者率を前回調査よりも更に大きく上回るに至るなど、高い年齢層においてもソーシャルメディアが重要なコミュニケーション手段となりつつあることがうかがえる。

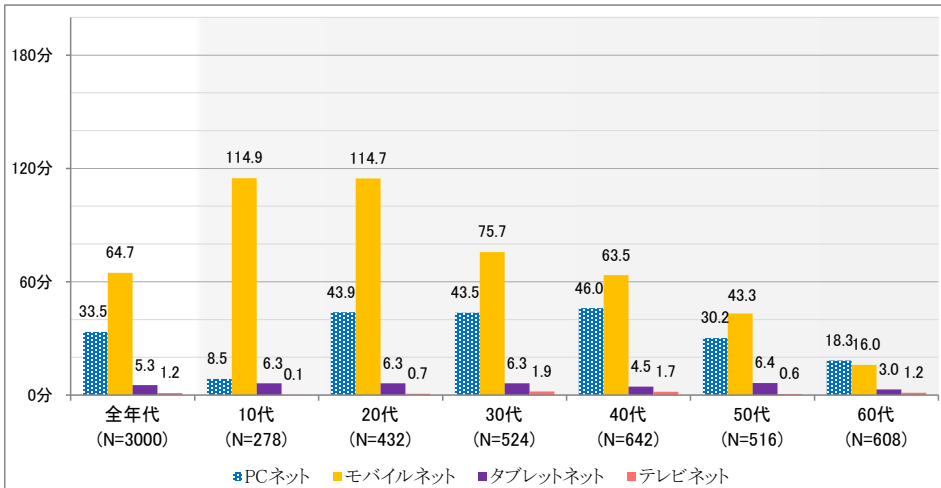
経年(平日)主なコミュニケーション系メディアの平均利用時間及び行為者率(年代別)



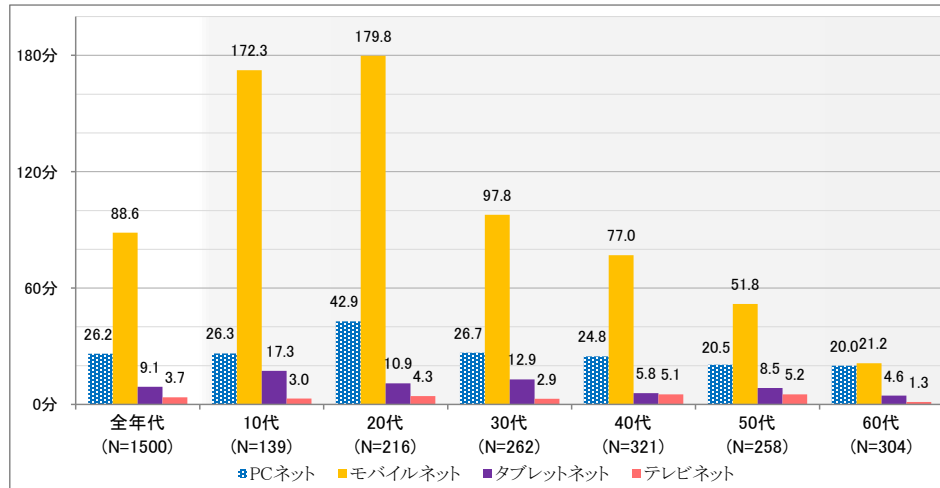
第3章3-1 主な機器によるインターネット利用時間と行為者率

- パソコンによるインターネット利用は、前回調査と比べて平日35.5分→33.5分、休日27.7分→26.2分と平日休日ともに減少。
- モバイル機器によるインターネット利用の平均利用時間は、今回調査では平日64.7分、休日88.6分となり、継続的に増加。また、行為者率についても、平日63.2%→69.3%、休日63.8%→70.3%と平日休日ともに増加。
- 10～20代のモバイル機器によるインターネット利用時間が突出して長いのは前回調査までと同様。

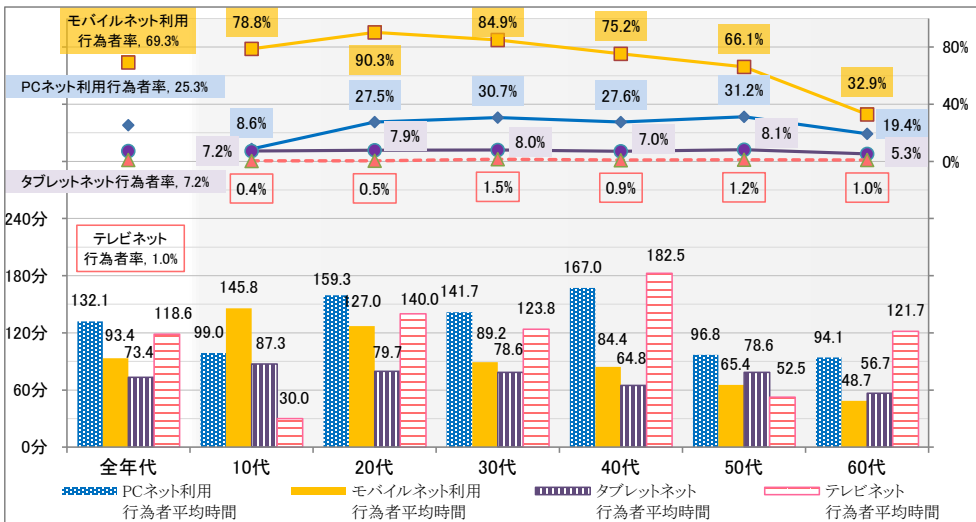
平成29年(平日)主な機器によるインターネット平均利用時間(全年代・年代別)



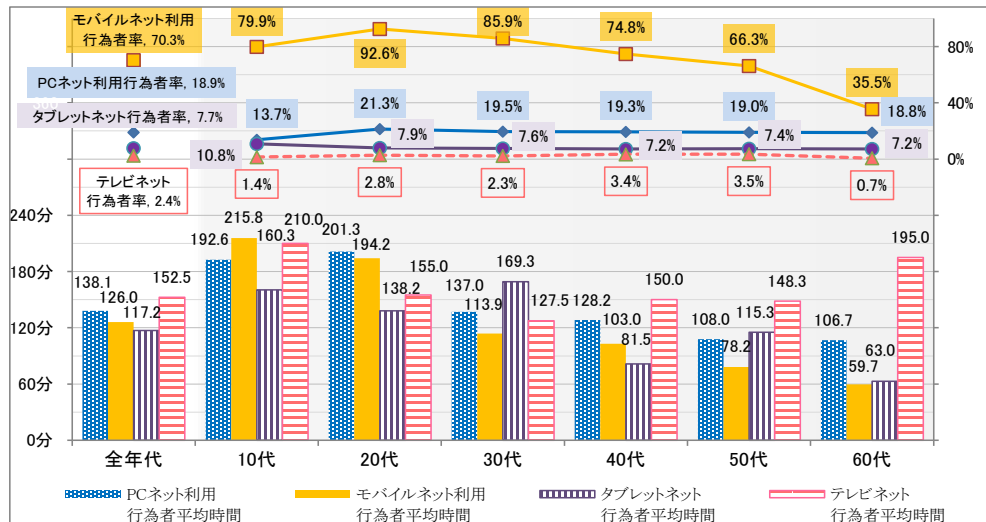
平成29年(休日)主な機器によるインターネット平均利用時間(全年代・年代別)



平成29年(平日)主な機器によるネット行為者率・行為者平均時間(全年代・年代別)



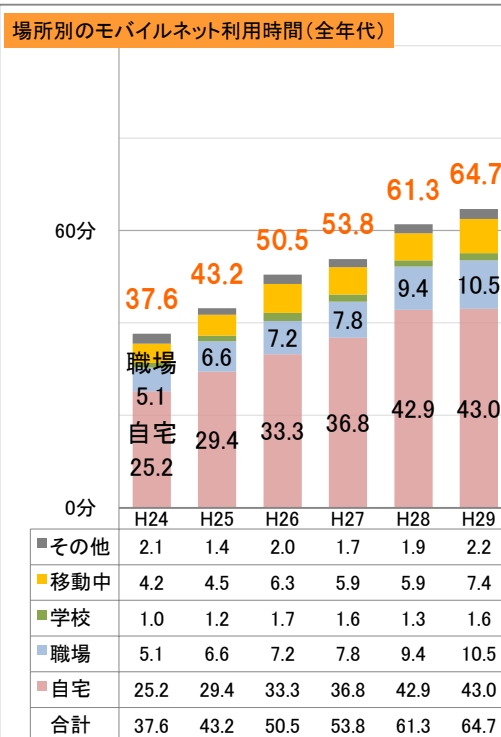
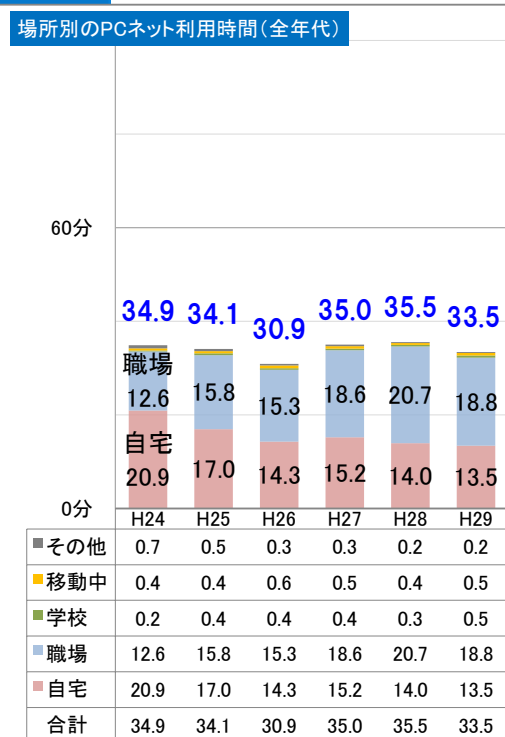
平成29年(休日)主な機器によるネット行為者率・行為者平均時間(全年代・年代別)



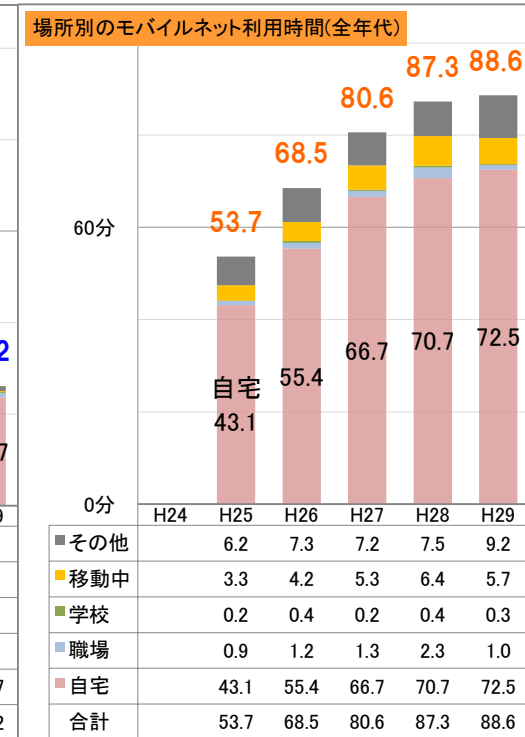
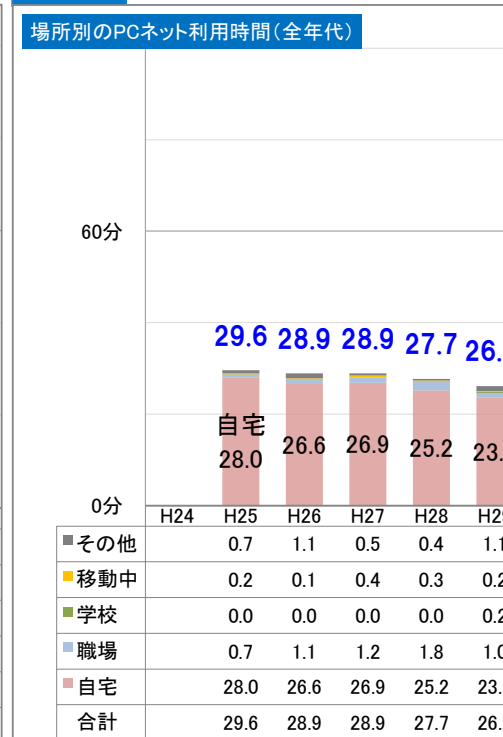
- 所在場所類型ごとに見ると、モバイル機器によるインターネット利用は、自宅での平均利用時間が平日休日ともに一貫して増加傾向にある。その要因としては、スマートフォンの利用率が一貫して高まっており、自宅での利用時間も増えていることが考えられる。
- パソコンによるインターネット利用については、自宅での平均利用時間が、平日休日ともに減少傾向を示しており、平日13.5分、休日23.7分となった。

経年 主な機器によるインターネット平均利用時間及び所在場所類型ごとの内訳(全年代)

平日

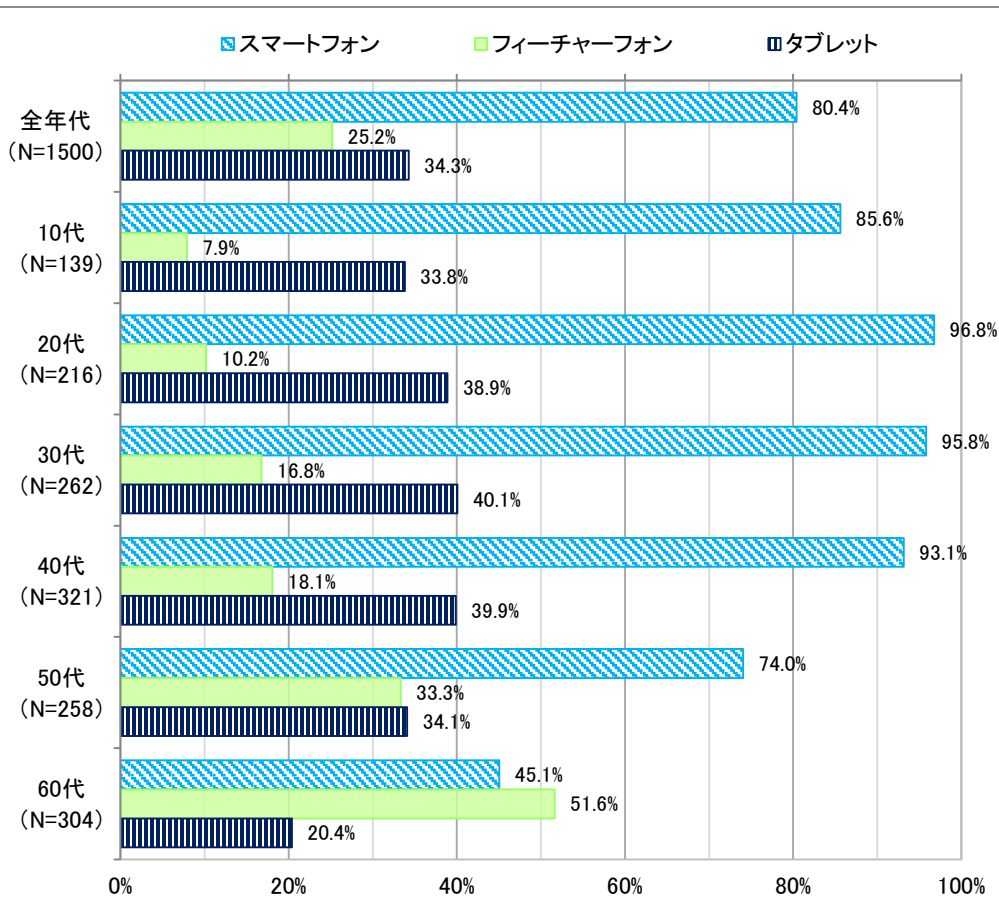


休日

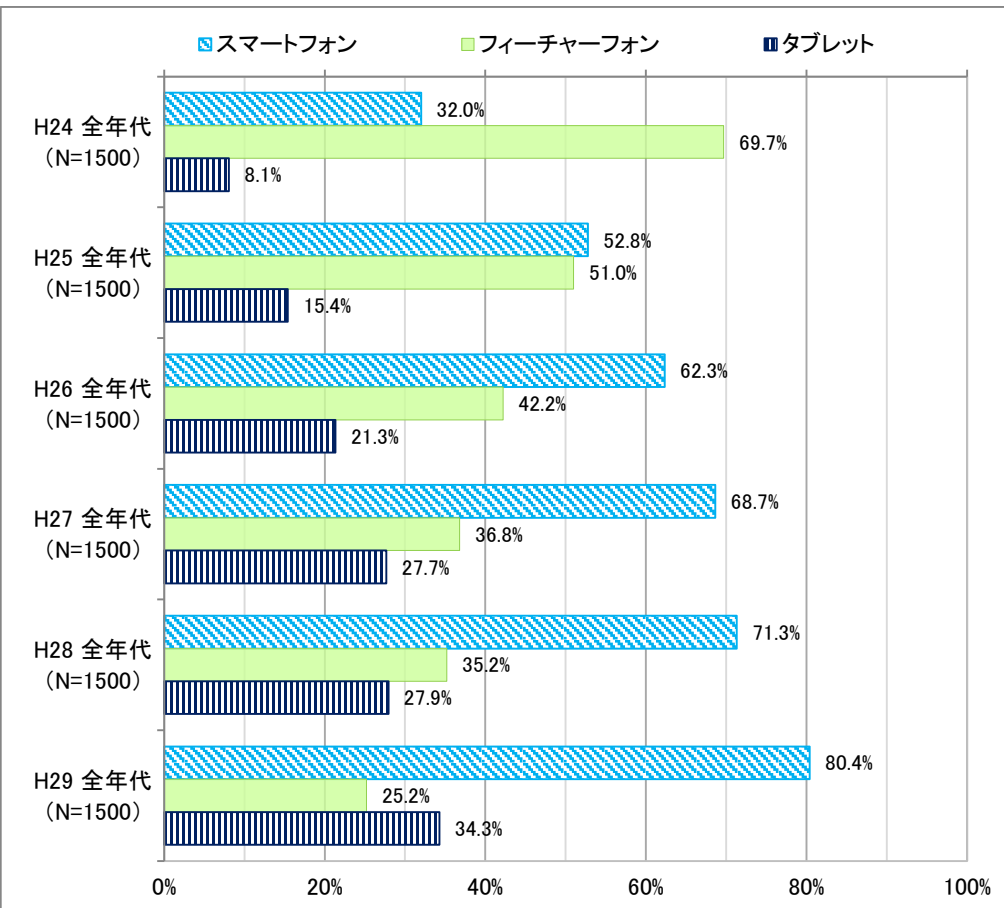


- 全年代でのスマートフォンの利用率はついに8割を超え、80.4%に達した。
- 年代別に見ると、40代及び60代のスマートフォン利用率が前回調査から約13ポイントそれぞれ増加し、40代では初めて9割を超えて93.1%となった点や、10代及び50代においてもスマートフォン利用率が約11ポイント増と大きく伸びている点が目に付く。
- タブレットの利用率は、全年代で34.3%に増加し、初めてフィーチャーフォンの利用率25.2%を上回った。

平成29年 モバイル機器等の利用率（全年代・年代別）



経年 モバイル機器等の利用率（全年代）



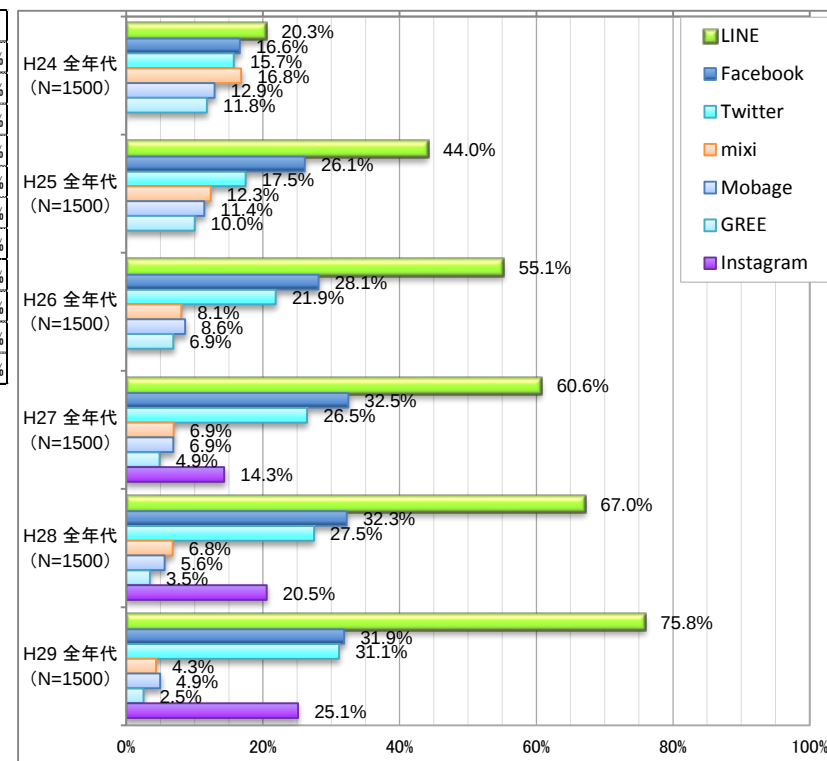
※フィーチャーフォン:ここでは携帯電話のうち、スマートフォンを除き、PHSを含むもの。

- LINEの利用率が引き続き最も高く、全年代では75.8%（前回平成28年調査67.0%）。
- ユーザ同士の交流やコミュニケーションを主な目的とするソーシャルメディア系サービス/アプリでは、全年代の利用率で見ると、Facebook31.9%、Twitter31.1%、Instagram25.1%がLINEに続いている。
- Twitterは10代及び20代の利用率が67.6%、70.4%と高く、前回調査で初めてFacebookを上回った20代の利用率が、59.9%→70.4%と大きく伸びた。また、Instagramの利用率は、特に20代では52.8%となり、Facebookの利用率52.3%を上回った。
- Instagram（男性19.4%、女性31.0%）やニコニコ動画（男性23.1%、女性14.5%）のように、性別によって利用率に比較的差があるものも存在する。

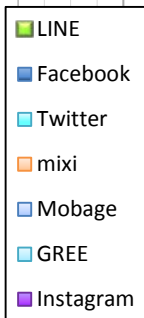
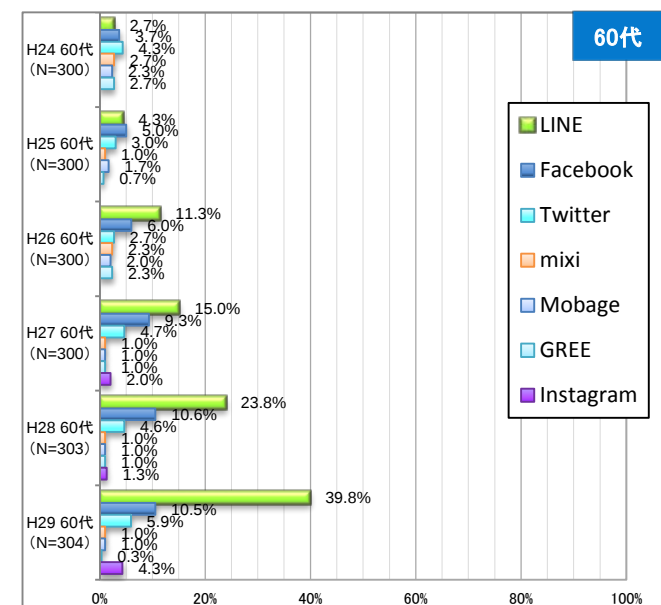
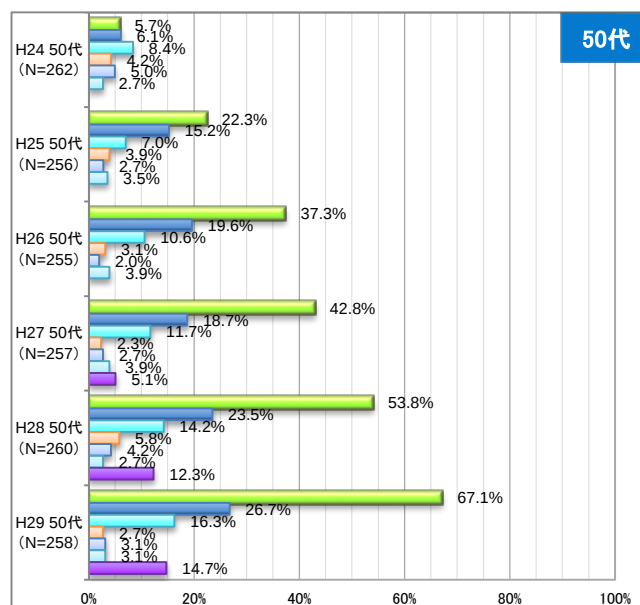
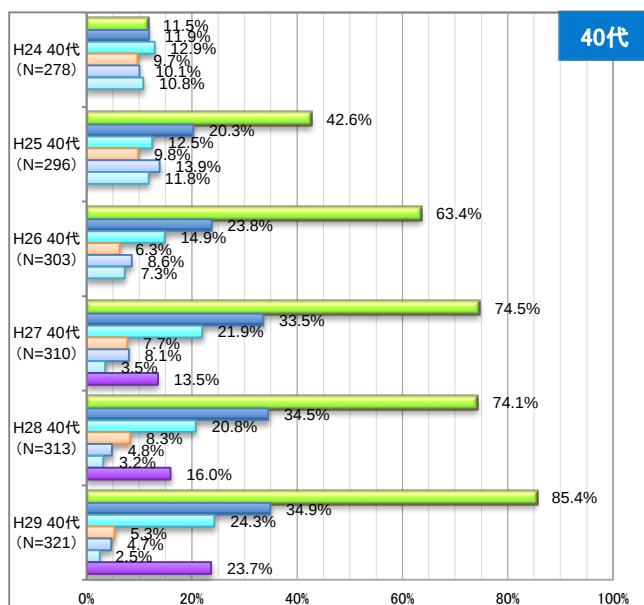
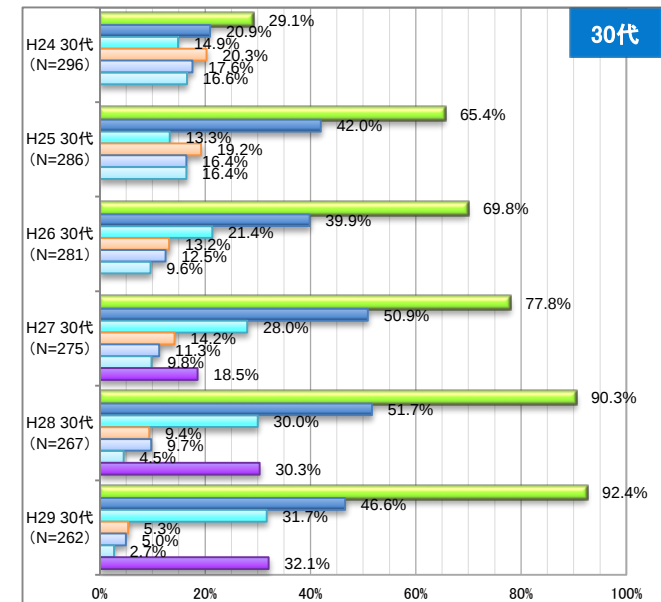
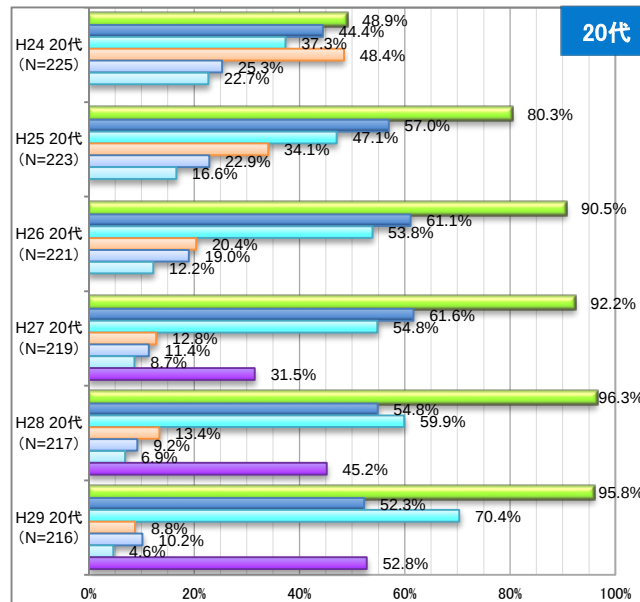
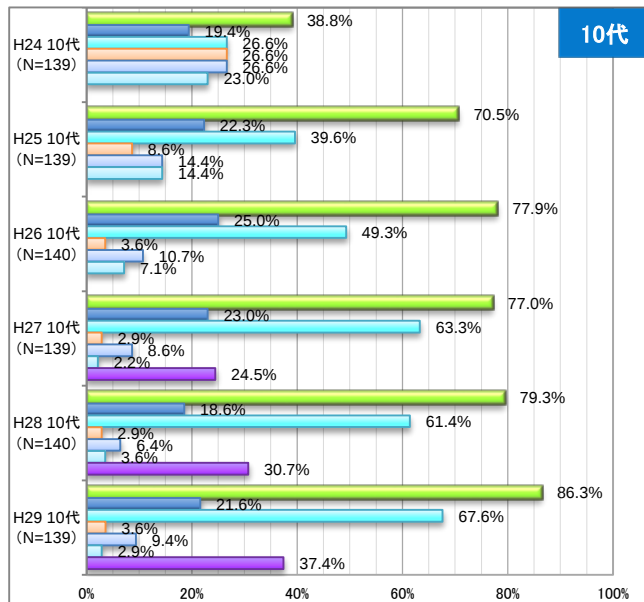
平成29年 主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率（全年代・年代別）

	全年代(N=1500)	10代(N=139)	20代(N=216)	30代(N=262)	40代(N=321)	50代(N=258)	60代(N=304)	男性(N=757)	女性(N=743)
LINE	75.8%	86.3%	95.8%	92.4%	85.4%	67.1%	39.8%	72.4%	79.3%
Facebook	31.9%	21.6%	52.3%	46.6%	34.9%	26.7%	10.5%	33.7%	30.0%
Twitter	31.1%	67.6%	70.4%	31.7%	24.3%	16.3%	5.9%	32.9%	29.3%
mixi	4.3%	3.6%	8.8%	5.3%	5.3%	2.7%	1.0%	4.5%	4.2%
Mobage	4.9%	9.4%	10.2%	5.0%	4.7%	3.1%	1.0%	6.5%	3.4%
GREE	2.5%	2.9%	4.6%	2.7%	2.5%	3.1%	0.3%	3.0%	2.0%
Google+	23.7%	20.9%	25.5%	24.8%	31.5%	25.6%	12.8%	25.9%	21.4%
YouTube	72.2%	93.5%	94.0%	87.4%	80.4%	64.0%	32.2%	74.9%	69.4%
ニコニコ動画	18.9%	31.7%	34.7%	18.3%	15.3%	16.7%	7.9%	23.1%	14.5%
Snapchat	2.1%	5.0%	9.3%	0.8%	0.3%	0.0%	0.7%	1.3%	3.0%
Instagram	25.1%	37.4%	52.8%	32.1%	23.7%	14.7%	4.3%	19.4%	31.0%

経年 主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率（全年代）



経年 主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率(年代別)

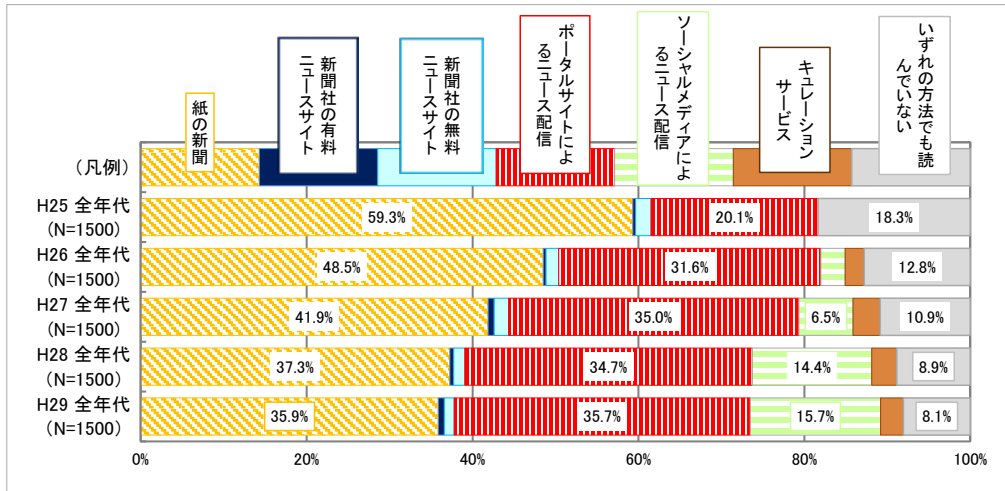


- 新聞及びニュースサイトなどからテキストでニュースを得る手段について、全年代で見ると、紙媒体の新聞の割合が56.3%→53.8%と減少し、Yahoo!ニュースなどのポータルサイトによるニュース配信が60.4%→62.3%と増加したことにより、前回調査で順位が逆転した両者の差は一層開く結果となった。
- 最も利用しているテキスト系ニュースサービスでは、紙の新聞が37.3%→35.9%と減少し、ポータルサイトによるニュース配信が34.7%→35.7%と増加したため、両者の差は0.2ポイントと極めて小さくなっている。

平成29年 利用している
テキスト系ニュースサ
ービス(全年代・年代別・男
女別あり)

	紙の新聞	新聞社の有料 ニュースサイト	新聞社の無料 ニュースサイト	ポータルサイト によるニュース配信	ソーシャルメディア によるニュース配信	キュレーション サービス	いずれの方法でも 読んでいない
全年代(N=1500)	53.8%	3.2%	9.9%	62.3%	33.9%	9.7%	8.1%
10代(N=139)	17.3%	0.7%	7.9%	53.2%	43.2%	7.2%	23.0%
20代(N=216)	26.4%	3.7%	11.6%	69.4%	50.5%	16.7%	7.4%
30代(N=262)	34.7%	4.2%	8.4%	70.6%	46.9%	9.9%	7.6%
40代(N=321)	56.1%	4.4%	10.9%	74.1%	41.7%	9.7%	6.2%
50代(N=258)	73.3%	5.0%	14.3%	63.2%	23.6%	9.7%	5.8%
60代(N=304)	87.5%	0.3%	5.9%	40.8%	6.9%	5.9%	5.9%
男性(N=757)	55.7%	4.8%	11.1%	64.5%	26.7%	10.2%	7.7%
女性(N=743)	51.8%	1.6%	8.6%	60.0%	41.2%	9.3%	8.5%

経年 最も利用している
テキスト系ニュースサ
ービス(全年代)



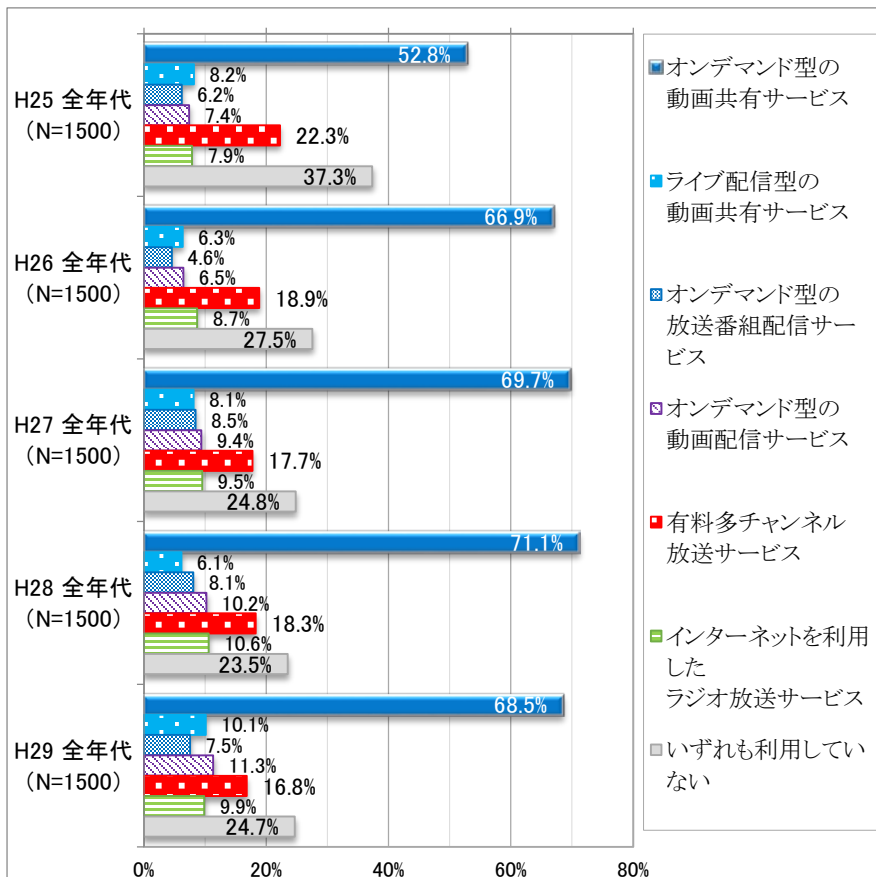
注 ポータルサイトによるニュース配信 :Yahoo!ニュース、Googleニュースなど

ソーシャルメディアによるニュース配信:LINE NEWSなど(平成26年調査から選択肢に追加)

キュレーションサービス :スマートニュース、グノシー、NewsPicksなど、ウェブ上のコンテンツをある特定のテーマや切り口で読みやすくまとめ、編集・共有・公開するもの(平成26年調査から選択肢に追加)

- YouTube、ニコニコ動画などの「オンデマンド型の動画共有サービス」の利用率が全年代で68.5%と最多となったが、前回調査の71.1%からは減少した。次いで「有料多チャンネル放送サービス」の16.8%が高い。
- 「オンデマンド型の動画共有サービス」は、10代の利用率95.0%をピークとして若い年代ほど利用率が高い。
- 「ライブ配信型の動画共有サービス」は、10～20代の若年層に限って見ると、10代7.1%→24.5%、20代15.2%→25.9%とそれぞれ大きく増加。
- 「オンデマンド型の動画配信サービス」は、60代を除く各年代において利用率が増加し、それぞれ10%を超えた。

経年 動画共有・配信サービス等の利用率(全年代)



平成29年 動画共有・配信サービス等の利用率(全年代・年代別)

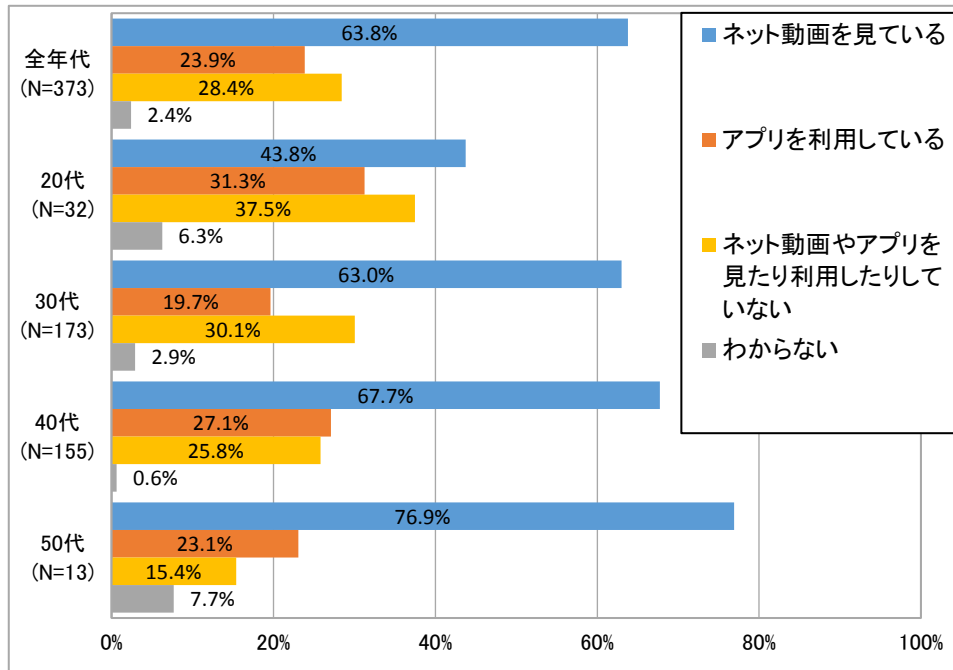
	オンデマンド型の動画共有サービス	ライブ配信型の動画共有サービス	オンデマンド型の放送番組配信サービス	オンデマンド型の動画配信サービス	有料多チャンネル放送サービス	インターネットを利用したラジオ放送サービス	いずれも利用していない
全年代 (N=1500)	68.5%	10.1%	7.5%	11.3%	16.8%	9.9%	24.7%
10代 (N=139)	95.0%	24.5%	8.6%	12.9%	12.9%	7.9%	5.0%
20代 (N=216)	91.2%	25.9%	6.0%	16.2%	18.5%	12.5%	7.4%
30代 (N=262)	84.7%	8.0%	5.0%	15.6%	10.7%	10.3%	11.8%
40代 (N=321)	73.2%	6.9%	8.7%	11.8%	15.0%	11.5%	21.2%
50代 (N=258)	60.9%	5.0%	9.3%	11.6%	21.7%	12.8%	29.1%
60代 (N=304)	28.0%	2.0%	7.6%	2.6%	20.4%	4.3%	56.9%

注

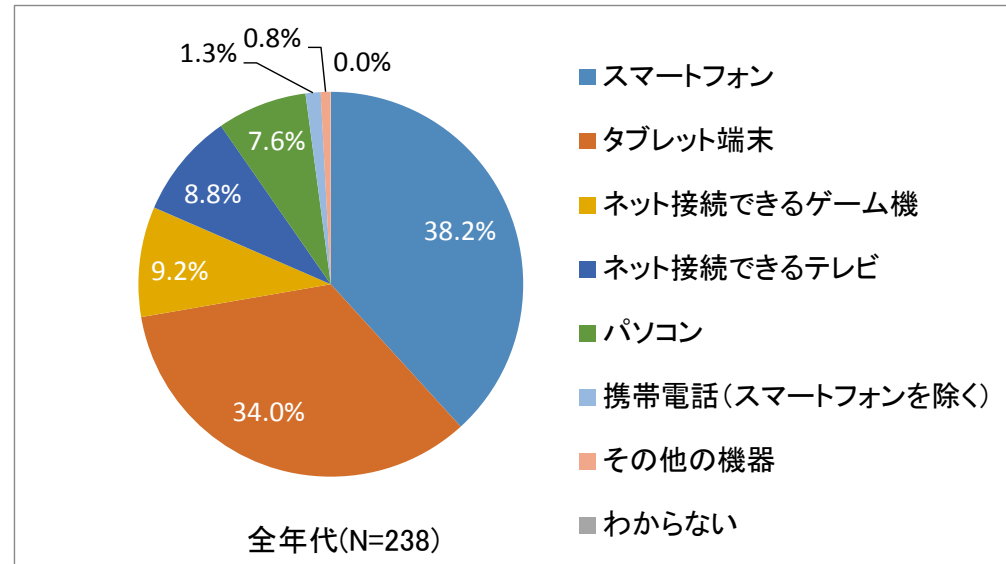
- オンデマンド型の動画共有サービス : YouTube、ニコニコ動画など
- ライブ配信型の動画共有サービス : ニコニコ生放送、ツイキャスなど
- オンデマンド型の放送番組配信サービス : NHKオンデマンド、フジテレビオンデマンドなど
(NHK、民放キー局が提供するもの)
- オンデマンド型の動画配信サービス : GYAO!、アクトビラ、Hulu、Netflix、ひかりTVなど
- 有料多チャンネル放送サービス : WOWOW、スカパー、ケーブルテレビなど
- インターネットを利用したラジオ放送サービス : radikoなど

- 子供(12歳以下)のネット動画視聴及びアプリ利用の有無について、該当する子供を持つ20代から50代までの親から回答を得たところ、子供がネット動画を視聴していると回答した割合は63.8%であり、アプリを利用していると回答した割合は23.9%。
- 親の年代別で見ると、50代で子供がネット動画を視聴していると回答した割合が76.9%と最も高くなった。
- 12歳以下の子供がネット動画を視聴する際の機器は、スマートフォン38.2%、タブレット端末34.0%の順で最もよく用いられており、この2つで全体の7割強を占める。

平成29年 子供のネット動画視聴及びアプリ利用の有無(親の全年代・年代別)



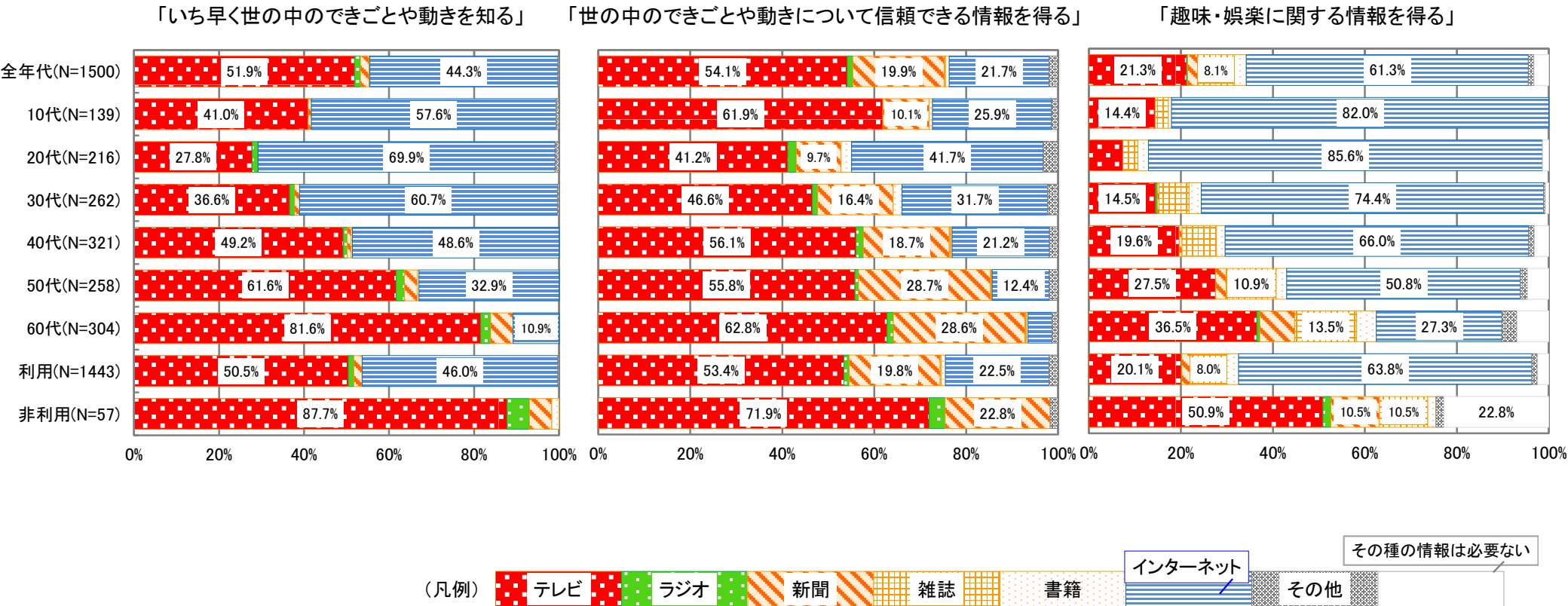
平成29年 子供のネット動画視聴で最もよく利用する機器(親の全年代)



注 該当する子供を2人以上持つ親には、一番年上の子供の状況について回答を求めた。

- 「いち早く世の中のできごとや動きを知る」及び「世の中のできごとや動きについて信頼できる情報を得る」ためには、全年代でテレビが最も高い割合で利用される。一方で、「趣味や娯楽に関する情報を得る」ため等では、インターネットが最も高い割合で利用される。ただし、全般的にテレビを利用する割合は概ね減少傾向、インターネットを利用する割合は概ね増加傾向。
- 年代別で見ると、いずれの目的でも、概ね20代が最もテレビの利用が少なく、年代が上がるにつれてテレビの利用が多くなる。

平成29年 目的別利用メディア（最も利用するメディア）（全年代・年代別・インターネット利用・非利用別）



第7章7-1 メディアの重要度

- ✓ それぞれのメディアがどの程度重要かの回答を「非常に重要」「ある程度重要」「どちらともいえない」「あまり重要ではない」「まったく重要ではない」の5件法で求めた。集計にあたっては、「非常に重要」「ある程度重要」と回答したものを「重要度」として合計。

- 情報源としての重要度について、全年代では、テレビ88.6%、インターネット73.3%、新聞61.0%、雑誌21.4%の順に重要度が高い。平成27年調査で順位が入れ替わったインターネットと新聞の差は一層開く結果となった。
- 娯楽としての重要度について、全年代では、前回調査までと同じく、テレビ87.9%、インターネット77.5%、雑誌41.1%、新聞40.6%の順に重要度が高い。
- どちらにおいても、全年代ではインターネットの重要度のみが増加。

平成29年 情報源としての重要度(全年代・年代別・インターネット利用・非利用別)

		テレビ	新聞	インターネット	雑誌
全年代	全年代(N=1500)	88.6%	61.0%	73.3%	21.4%
年代別	10代(N=139)	87.1%	29.5%	83.5%	15.8%
	20代(N=216)	80.6%	36.1%	84.3%	17.6%
	30代(N=262)	82.1%	47.3%	87.0%	21.0%
	40代(N=321)	88.8%	62.9%	80.1%	23.1%
	50代(N=258)	95.3%	80.2%	69.0%	24.0%
	60代(N=304)	94.7%	86.5%	45.4%	23.0%
インターネット	利用(N=1443)	88.5%	60.4%	75.8%	21.3%
	非利用(N=57)	91.2%	75.4%	8.8%	24.6%

(参考)平成28年 情報源としての重要度

		テレビ	新聞	インターネット	雑誌
全年代	全年代(N=1500)	90.6%	63.5%	71.2%	25.3%
年代別	10代(N=140)	93.6%	37.9%	77.1%	24.3%
	20代(N=217)	85.7%	41.0%	89.9%	21.7%
	30代(N=267)	86.9%	49.8%	85.8%	25.8%
	40代(N=313)	92.3%	61.7%	79.6%	27.8%
	50代(N=260)	91.2%	81.5%	61.5%	24.2%
	60代(N=303)	93.7%	90.1%	41.9%	26.4%
インターネット	利用(N=1444)	90.4%	62.7%	73.8%	25.3%
	非利用(N=56)	94.6%	85.7%	5.4%	25.0%

平成29年 娯楽としての重要度(全年代・年代別・インターネット利用・非利用別)

		テレビ	新聞	インターネット	雑誌
全年代	全年代(N=1500)	87.9%	40.6%	77.5%	41.1%
年代別	10代(N=139)	87.8%	13.7%	89.2%	32.4%
	20代(N=216)	81.9%	18.5%	91.7%	42.1%
	30代(N=262)	80.9%	24.0%	88.5%	38.5%
	40代(N=321)	89.1%	38.0%	85.7%	41.4%
	50代(N=258)	90.3%	53.9%	72.9%	44.2%
	60代(N=304)	95.1%	74.3%	48.0%	43.4%
インターネット	利用(N=1443)	87.9%	39.5%	80.4%	41.3%
	非利用(N=57)	89.5%	68.4%	5.3%	35.1%

(参考)平成28年 娯楽としての重要度

		テレビ	新聞	インターネット	雑誌
全年代	全年代(N=1500)	90.7%	46.1%	75.7%	47.6%
年代別	10代(N=140)	92.9%	22.1%	84.3%	42.9%
	20代(N=217)	89.9%	22.6%	97.2%	53.0%
	30代(N=267)	88.8%	33.3%	90.6%	47.6%
	40代(N=313)	89.1%	40.9%	82.7%	50.8%
	50代(N=260)	90.4%	61.5%	66.2%	51.2%
	60代(N=303)	93.7%	77.2%	43.9%	39.6%
インターネット	利用(N=1444)	90.3%	44.7%	78.4%	48.0%
	非利用(N=56)	100.0%	80.4%	5.4%	37.5%

- ✓ それぞれのメディアのうち、信頼できる情報がどの程度あると思うかの回答を「全部信頼できる」「大部分信頼できる」「半々くらい」「一部しか信頼できない」「まったく信頼できない」の5件法で求めた。集計にあたっては、「全部信頼できる」「大部分信頼できる」と回答したものを「信頼度」として合計。

- 全年代で見ると、最も信頼度が高かったのは新聞68.7%（前回平成28年調査70.1%）。次いでテレビ63.6%（同65.5%）、インターネット30.8%（同33.8%）、雑誌19.1%（同20.5%）。
- 前回調査と比較すると、すべてのメディアで信頼度が減少したが、順位などメディア間の傾向に大きな変化はなかった。

平成29年 各メディアの信頼度（全年代・年代別・インターネット利用・非利用別）

		テレビ	新聞	インターネット	雑誌
全年代	全年代(N=1500)	63.6%	68.7%	30.8%	19.1%
年代	10代(N=139)	71.2%	64.0%	36.0%	26.6%
	20代(N=216)	53.2%	56.5%	29.2%	20.4%
	30代(N=262)	55.0%	63.4%	31.7%	23.7%
	40代(N=321)	63.9%	70.7%	38.6%	21.5%
	50代(N=258)	67.4%	73.6%	26.7%	12.8%
	60代(N=304)	71.4%	77.6%	24.0%	13.8%
インターネット	利用(N=1443)	63.3%	68.8%	31.8%	19.5%
	非利用(N=57)	70.2%	64.9%	5.3%	10.5%

（参考）平成28年 各メディアの信頼度

		テレビ	新聞	インターネット	雑誌
全年代	全年代(N=1500)	65.5%	70.1%	33.8%	20.5%
年代	10代(N=140)	66.4%	66.4%	30.7%	27.9%
	20代(N=217)	60.4%	64.5%	42.4%	20.7%
	30代(N=267)	58.4%	62.2%	35.2%	22.1%
	40代(N=313)	63.6%	70.0%	33.9%	23.3%
	50代(N=260)	70.0%	76.5%	37.3%	18.1%
	60代(N=303)	72.9%	77.2%	24.8%	14.9%
インターネット	利用(N=1444)	65.0%	69.7%	34.7%	20.6%
	非利用(N=56)	76.8%	78.6%	10.7%	17.9%

第7章7-2-2 メディアのテーマ別信頼度

- 前回調査までと同様、テレビ、ラジオ、新聞といった従来型メディアの信頼度が高く、新聞が最も高い。
- 前回調査と比べて各メディアの信頼度の多くが減少したが、そのような中でも「ソーシャルメディア」及び「ブログ、その他のサイト」の信頼度は全てのテーマにおいて増加。

経年 テーマ別の各メディアの信頼度(全年代・利用者ベース)※

	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	インターネット ニュースサイト	ソーシャル メディア	ブログ、その他 のサイト	動画配信、動 画共有サイト
24年 政治・経済問題(国内)	84.0%	84.3%	86.7%	35.6%	74.4%	29.8%	24.7%	29.5%
25年 政治・経済問題(国内)	86.5%	85.3%	88.5%	41.6%	74.8%	27.1%	17.4%	23.0%
26年 政治・経済問題(国内)	85.5%	85.1%	88.2%	33.7%	73.6%	27.0%	21.7%	17.2%
27年 政治・経済問題(国内)	83.1%	84.3%	85.7%	38.2%	69.0%	25.8%	15.4%	23.1%
28年 政治・経済問題(国内)	86.2%	85.7%	89.4%	42.6%	70.7%	34.2%	17.0%	24.3%
29年 政治・経済問題(国内)	82.2%	83.1%	86.1%	39.0%	65.9%	36.0%	19.0%	23.5%
24年 社会問題(国内)	84.0%	84.2%	86.8%	36.2%	74.8%	31.8%	24.6%	29.0%
25年 社会問題(国内)	86.3%	85.7%	88.8%	42.0%	74.8%	28.8%	19.0%	23.7%
26年 社会問題(国内)	87.4%	85.1%	88.5%	34.7%	74.2%	27.4%	17.5%	22.4%
27年 社会問題(国内)	85.4%	85.4%	87.4%	39.4%	71.2%	27.6%	15.6%	23.9%
28年 社会問題(国内)	86.7%	84.3%	88.9%	44.5%	70.3%	36.1%	17.7%	25.4%
29年 社会問題(国内)	83.9%	84.1%	87.6%	41.7%	66.9%	37.6%	19.8%	23.4%
24年 海外ニュース	79.7%	77.3%	81.7%	35.6%	71.4%	31.9%	23.4%	30.5%
25年 海外ニュース	83.2%	81.0%	85.0%	41.0%	70.7%	27.5%	17.7%	22.5%
26年 海外ニュース	82.4%	79.1%	83.9%	34.9%	70.9%	27.6%	17.1%	23.2%
27年 海外ニュース	80.8%	78.9%	82.8%	39.7%	67.0%	28.1%	16.4%	23.4%
28年 海外ニュース	81.4%	78.7%	85.3%	43.3%	67.3%	33.8%	17.6%	24.6%
29年 海外ニュース	81.4%	80.5%	84.5%	40.7%	63.2%	34.9%	18.8%	22.6%
24年 原子力発電所の安全性	49.0%	50.7%	56.6%	27.4%	51.6%	24.7%	20.6%	21.3%
25年 原子力の安全性	52.2%	52.7%	61.4%	28.7%	51.7%	21.3%	13.8%	16.7%
26年 原子力の安全性	54.1%	56.4%	59.7%	25.7%	50.1%	20.4%	15.5%	16.9%
27年 原子力の安全性	50.9%	52.9%	57.3%	28.1%	45.5%	18.9%	13.0%	17.4%
28年 原子力の安全性	55.5%	56.6%	63.8%	30.7%	48.5%	25.4%	14.5%	19.6%
29年 原子力の安全性	55.1%	56.0%	63.9%	30.9%	48.8%	28.3%	16.4%	19.0%
24年 東アジア情勢	66.4%	66.2%	69.7%	32.2%	62.6%	28.5%	22.8%	26.3%
25年 東アジア情勢	71.2%	69.3%	75.5%	36.1%	60.9%	22.7%	15.2%	18.8%
26年 東アジアの外交問題	65.4%	67.5%	71.7%	29.7%	57.9%	22.6%	16.5%	20.1%
27年 東アジアの外交問題	65.9%	65.0%	70.5%	33.4%	55.6%	21.2%	14.8%	19.4%
28年 東アジアの外交問題	67.0%	66.6%	73.1%	35.8%	56.0%	27.8%	14.9%	21.4%
29年 東アジアの外交問題	66.3%	67.6%	73.9%	35.9%	54.9%	32.1%	17.0%	21.3%

✓ 5つのテーマについて、それぞれのメディアに信頼できる情報がどの程度あると思うかの回答を、「非常に信頼できる」「ある程度信頼できる」「あまり信頼できない」「まったく信頼できない」「そもそもその情報源を使わない、知らない」の5件法で求めた。利用者ベースの信頼度の集計にあたっては、「そもそもその情報源を使わない、知らない」と回答した者を除いたうえで「非常に信頼できる」「ある程度信頼できる」と回答した者の割合を「信頼度」としている。

※ 利用者ベースの信頼度(各メディアの利用者の中での当該メディアの信頼度)を掲載。報告書第7章7-2-2には、表7-2-2-1として全年代(全対象者)の各メディアの信頼度の表も掲載しているので、適宜参照されたい。